

炉辺談話総集編

No. 7

2008年

もくじ

2008年 RI のテーマ	1
職業奉仕 その原理と実践 1	4
職業奉仕 その原理と実践 2	10
職業奉仕 その原理と実践 3	18
2007年クラブ定款上の四大奉仕の解説	31
ロータリー進化論	35
犬の十戒	40
虹の橋	45
ロータリーの綱領とその遵守義務	51
ロータリークラブ定款と CLE の矛盾	55
アル・カポネとシカゴクラブ	61
ボビー・フランクス殺人事件	67
1909年の方針	70
黄金律の解釈	74
決議 23-34 の杞憂	77
決議 23-34 の杞憂 2	83
シカゴ公衆便所設置運動の真相	96

2008年 RIのテーマ

Make Dreams Real

夢をかたちに

2008年国際協議会における、国際ロータリー会長エレクト李東建氏のスピーチ

2008年国際協議会において、国際ロータリーの会長エレクトである李東建氏が次期地区ガバナーに向けて講演を行い、子供の死亡率を減らすためにリソースを傾けるよう訴えました。毎日、肺炎やはしか、マラリアといった避けられるはずの病気で命を落とす5歳未満の子供の数が3万人もいると知り、信じられなかった、と李会長エレクトは言います。

「この愕然たる数字の裏にある問題の根源を理解できたとき、私にはやるべきことが見えてきました」と李エレクト。ここ数年のロータリーの強調事項である「水、保健と飢餓、識字率向上」をそのまま引き継ぐことを伝える一方、こうした各分野の活動において子供に光を当てるよう次期ガバナーに求めました。

「2008-09年度、どうか世界中の子供たちの『夢をかたちに』していただけるようお願いいたします。これが私のテーマであり、皆さんへの挑戦です」

「治療可能なはずの病気も、不衛生な環境と栄養失調とが相まっては、子供たちの命を奪う不治の病となります」と述べる李エレクトは、さらに、極貧の家族が、さらに不必要な死に苦しめられるという悪循環から抜け出せないという事実を指摘します。「命をも奪うほどの赤貧の連鎖を断ち切る方法は、教育においてほかにはありません」

世界中で子供の死亡率を低下させ、「将来への希望とチャンスを提供する」ために、自分のできることをしよう、と李会長エレクトは聴衆に語りかけました。

「私たちは、地域社会にきれいな水を提供し、子供たちの保健に取り組む衛生プロジェクトを実施するのです」

次年度のガバナーが就任に向けて研修を受け、意欲を高めるこの国際協議会において、李会長エレクトは、ロータリーの力を強調し、世界で最大の善を成すためにリソースを効果的に用いるよう、ガバナー・エレクトに呼びかけました。

第 9930 地区（ニュージーランド）のガバナー・エレクト、ジョフリー・マクス氏は、この RI のテーマが、夢を大きく持つことを促すものだ、と言います。「『夢をかたちに』とは、世界のどこでも通用する、とてもわかりやすいテーマだと思います。私たちは皆、チャレンジ精神が旺盛です。李会長エレクトは、そんな私たちの夢を実現させてくれようとしているのです」

蚊帳、経口保水塩やビタミン、ワクチンを配給するといったささやかな方法で、ロータリアンは子供の死亡率を改善することができる、と李会長エレクトは訴えかけます。「それに、専門の助産士、簡易診療所、学校給食、看護師の訪問検診を加えることができれば、どれほどの改善につながることでしょう。このように誠に簡単な援助で、子供たちの命が救われるのです」

2008-09 年度には、地元をはじめ遠く離れた地域社会でも、子供たちのニーズに目を見開くようロータリアンに求められていくことになります。

「誰も助けられないから死ぬのではなく、誰も助けられないから死ぬというケースのなんと多いことでしょう。しかし、ロータリアンである皆さんと私にとって、助けることは得意分野です」と述べた李エレクト

トは、次のように続けます。「私たちの仕事は、子供たちの『夢をかたちに』することです。私たち一人ひとりがこの仕事を全うするなら、年度の幕が降りるとき、私たちは素晴らしいことを達成しているに違いありません」

2008年1月15日

職業奉仕 その原理と実践 1

職業奉仕の理念は **He profits most who serves best** 最もよく奉仕する者、最も多く報いられるというモットーで表されています。

このモットーはアーサー・フレデリック・シェルドンが提唱したものであり、職業奉仕は彼の考え方を、そっくりそのままロータリーが受け入れ、今日に引き継いでいる他の奉仕団体とは異なった独自の奉仕理念です。**Profit** という単語を巡ってイギリスが拒否反応を示したり、**He** という代名詞を巡って性限定用語だという批判はあるものの、シェルドンの職業奉仕理念はいささかの修正も加えられることなしに現在に引き継がれています。シェルドンの職業奉仕理念こそがロータリーの職業奉仕理念であり、どんなに優れた考え方であったとしても、シェルドンと異なる考え方を、職業奉仕理念と呼ぶわけにはいきません。すなわち、職業奉仕の理念を理解しようと思ったら、シェルドンが書いたり語ったりした一次資料を理解することが必要です。しかし残念なことには日本ではシェルドンの一次資料はほとんど紹介されておらず、後世のロータリアンが書いた二次、三次の資料や伝聞によって職業奉仕が語られてきたのが現実です。

東洋思想の影響からか、日本のロータリアンの多くは職業奉仕に大きな関心を抱き、多くのロータリーの指導者たちが職業奉仕を説いていますが、シェルドンの職業奉仕理念とはかけ離れた解説もかなり多いようです。仏教や儒教のような東洋思想を引き合いにして職業奉仕を語る人もありますが、それはその人の考え方であって、シェルドンの職業奉仕理念とは程遠いものであることを強調しておきたいと思

います。

ヨーロッパではキリスト教の天職論と職業奉仕を結びつけて考える人が多いようです。ポールハリスが幼少の頃をニューイングランドで過ごしたことから、ピューリタニズムの天職論がロータリーの職業奉仕の根底にあると説く人もいますが、ポール自身が敬虔なキリスト教徒ではなかったことは、彼が書いた伝記からも明らかですし、ロータリーの職業奉仕理念の構築はポールではなく、アーサー・シェルドンの功績であることは誰の目にも明らかです。

マックス・ウエーバーの天職論がロータリーの職業奉仕の根底にあると説く人もいますが、これも明らかな間違いです。マックス・ウエーバーが彼の代表的著作である「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」を発表したのは 1905 年のことであり、シェルドンはそれよりはるか以前に職業奉仕の理念を構築して、それを実社会で応用するためのビジネス・スクールを経営していたからです。

シェルドンの奉仕理念を正しく知ることが、正しく職業奉仕を理解することにつながります。そこで先ず最初にシェルドンの職業奉仕理念とはどんな考え方なのかについてお話をしてみたいと思います。

我々職業人が自らの事業の継続的な発展を願うことは当然です。企業経営によって利益を得ることも当然であり、決して卑しいことはありません。しかし合法的でない方法や道徳的でない方法や、他人から批判を浴びるような方法で一時的に大きな利益をあげたとしても、それは長続きするものではありません。シェルドンは自らの事業を継続的に発展させるための学問的な企業経営の理念と実践方法を考え出して、そりをロータリーの職業奉仕理念として提唱したのです。

1921年、スコットランドのエジンバラで開催された国際大会で、シェルドンは、ロータリアンの職業は利益を得るための手段ではなく、その職業を通じて社会に奉仕するために存在するのであり、儲けを優先しようとして事業を営むことが、事業に失敗する最大の原因であると、次のような例を述べています。「今、仮に全世界の靴屋の会合が開かれて、靴に関連する職業を持っている全世界の人が集まったと仮定します。その人たちに、なぜ靴屋をしているのかと質問すれば、殆どの人は、儲けるためと答えるに違いありません。5%くらいの人は、自分の仕事が他の人のためになるから（職業を通じて社会に奉仕するため）と答えるかも知れません。仮に、その場所に大地震か何かの天変地異が起こって、集まった人たちが全員死んでしまったらどうなるでしょうか。当分の間は、何の影響もないかも知れませんが、やがて全世界の人たちは、靴を履くことができなくなってしまうことは確実です。そこで、初めて、5%の人たちが答えた、職業を通じて奉仕するという言葉の真意が理解できるのです。」

職業は専門職務と実業に分類されます。医者、僧侶、弁護士、教職者などの専門職務に携わる人は、利益を追求するためにサービスを提供するのではなく、相手の身分や報酬の金額に捉われずに、自己が保持する最高の技術を地域社会の人に提供することが義務付けられてきました。サービスを受けた人が感謝の念をこめて報酬を支払うのであり、財力のない人が支払を強制されることはありませんでした。

これに対して実業家は原価に利益を加えた取引で生活を営まなければなりません。如何にして適正な利益を設定するのかという問題を抱えていました。

シェルドンは、自らが利益をあげることにのみ狂奔せずに、自分の

職業を通じて地域社会の人に奉仕するという態度で、すなわち専門職務の人と同じ考え方で企業運営をすれば、その見返りとして最高の利益が得られることを説いたのです。

職業奉仕とは科学的かつ合理的な企業経営方法のことであり、シェルドンの職業奉仕理念に則った企業経営をすれば、継続的に最高の利益が得られることを証明する実践理論でもあります。他の奉仕活動の受益者はロータリアン以外の人たちですが、職業奉仕の受益者はロータリアン自身なのです。そしてそれを端的示したモットーが **He profits most who serves best** なのです。なお、職業奉仕の実践は顧客の満足度を最優先した事業経営の方法ですから、当然のこととして高い職業倫理という結果が現れます。しかしそれは職業奉仕を実践した結果に過ぎず、職業倫理高揚を目的とした活動ではありません。

さて、私の調査によると、シェルドンは 1910 年、1911 年、1913 年、1921 年の都合 4 回の国際大会と **The Rotarian** に対する数回の投稿で職業奉仕の理念を説いています。従って、これらの内容を理解すれば、シェルドンが説く職業奉仕の理念を完全に理解することができます。

1921 年のエジンバラ大会で発表した「ロータリー哲学」と題するスピーチ原稿は、1991 年に神崎正陳パストガバナーが東京のロータリー文庫で見出し、それを小堀憲助氏が翻訳しました。1910 年、1911 年、1913 年のスピーチ原稿は 2000 年と 2002 年に私が RI 本部の資料室で見つけ出して、1921 年のスピーチ原稿と共に私自身が翻訳して、私のウェブサイト「ロータリーの源流」で発表しました。なおこれ以外にも 2-3 の小論文が **The Rotarian** に投稿されていますが、いずれも「ロータリーの源流」に収録していますので、ぜひ原文に接していただきたいと思います。このように私が発表する以前には、正式

にシェルドンの論文が公開されていなかったために、日本のロータリアンがシェルドンの論文に直接触れて、シェルドンの職業奉仕理念を正しく理解できるようになったのは、ごく最近のことなのです。

ロータリー創立当初から 20 世紀の後半頃までは、第一次産業、第二次産業、第三次産業がバランスよく均衡を保っており、それぞれの産業別に職業分類を設定すればよかったです。最近はこのが大きく変わってきました。

2006 年の日本における産業別人口割合は、第一次産業(農業・漁業・林業等)4.8 %、第二次産業(鉱業・製造業・建設業等)26.1 %、第三次産業(上記以外の産業)69.1 %となっています。特に第三次産業の伸びは著しく、サービス・情報通信・金融などの分野で新しい分野の職業が生まれ、既存の職業分類表は今や無用の長物に化した感があります。

かつて私たちは、陰日なたなく額に汗しながらもくもくと働く姿を尊いものだと教えられてきました。会社は永年雇用、年功序列を原則とし、社員は会社に忠誠を誓うことを当然だと考えてきました。しかし昨今はその考え方が大きく変わってきました。労使の目的意識が変化し、雇用体系も変化してきました。効率よく働くことが美德とされ、生活費を稼ぐのに必要な時間だけ働いて、余暇を楽しむという風潮さえ生まれました。職業に関する目的も大きく変化し、企業は利益の追求を第一義に考えて会社を運営し、従業員は高い収入を得ることを第一義に考えて働くようになってしまいました。

こういう風潮の中から、世間を騒がすような企業の不祥事が続出していることは、職業奉仕を錦の御旗にしているロータリアンとして慙愧の念に耐えません。

昨今一連の不祥事を起こした企業の中に、ロータリアンの企業も数多く含まれています。ミートホープ然り、赤福餅然りです。職業奉仕を標榜する組織のオーナーが職業倫理にもとるような犯罪を犯したわけですから、当然マスコミもこれらのオーナーがロータリアンであることを大きく取り上げてロータリーを袋叩きにするはずなのに、どの新聞にもどのテレビにも一向にロータリーの名前がでてきません。すなわちマスコミも一般の人たちも、ロータリーが職業奉仕の実践と職業倫理を高めることを主な目的にした団体であることを認識せず、数多く存在するボランティア組織の一つくらいにしか考えていないことを意味するのではないのでしょうか。これまた腹立たしいことです。

2008年1月28日

職業奉仕 その原理と実践 2

私たちは何のために働いているのでしょうか。お金を儲けるため、それとも・・・。

ロータリーに職業奉仕の概念を導入したアーサー・フレデリック・シェルドンは、1921年に行った「ロータリー哲学」という表題のスピーチの中で、われわれの職業は、金儲けをする手段ではなく、その職業を通じて社会に奉仕するために存在すると述べています。現実にはありえないとしても、パン屋、洋服屋、米屋、銀行と、どんな職業であっても、ある日突然その職業を営む人が全員いなくなったとしたら、社会の人々は大いに困るに違いありません。そういう事態を迎えて初めて、すべての職業は社会に奉仕するために存在することが、判るのかも知れません。

ロータリーでは社会に奉仕するための事業を実業と定義しています。ほとんどの事業は程度の差こそあれ社会に貢献していますから実業です。

これに対して社会には全く貢献せず、自分が儲けることのみを第一義に考える事業は虚業だと言えるでしょう。なお例え実業であっても、社会に奉仕することを忘れて、自分の利益を優先した企業経営を行えば、その企業の将来は必ず不幸な末路をたどることでしょう。

事業主は実業であると信じていたかも知れませんが、明らかに虚業である幾つかの企業が起こした不祥事を振り返ってみましょう。

*テキサス州ヒューストンに本拠を置く総合エネルギー企業エンロンは、不正なガスと電力取引によって巨大な利益をあげました。しか

し不正な株価操作と粉飾決算が内部告発によって表面化して結果的に倒産しました。

＊堀江貴文氏は世間の誰もがやらないような方法で法律の抜け道を潜って、会社の実態の伴わない株式分割をしたり、時間外取引や投資事業組合やペーパー・カンパニーを使って、株の買占めや粉飾決算をしました。これらの二つの会社の共通点は、株価至上主義に走ったあまり、本来は会社の業績を示す指標であるはずの株価を、利益のかさ上げや、損失のとばし、デリバティブによって人為的に上げようとしたことにあります。

＊物言う株主として脚光を浴びた村上世彰氏はニッポン放送株のインサイダー取引によって実刑判決を受けました。ファンだから「安ければ買い、高ければ売る」のは当然だという擁護論もありますが、阪神電鉄買収劇を見ても、企業を自らの金儲けの手段としか考えていないことは明らかです。

＊敵対的買収で有名なスチール・パートナーズについても同様なことがいえます。伝票の操作だけで金を儲けるこれらの事業を果たして実業と呼べるのでしょうか。M&A と書くと格好よく聞こえますが、会社や従業員や消費者の利益のための M&A でなければ、これは「会社乗取屋」に過ぎません。「会社乗取屋」は社会に奉仕する職業なのでしょうか。「会社乗取屋」を含めた世間の人達が疑義を抱くような方法で巨万の富を築くような事業は、ロータリーが定義する世に有用な職業ではなく、虚業に過ぎないのです。ロータリーは、こういった事業をまともな職業だと判断して入会を許した経済団体の轍を踏むようなことがあってはならないのです。

職業を通じて社会に奉仕することを忘れて、自分の利益を優先するところから、数々の不祥事が起こります。

2005年の春に、鶏インフルエンザを巡って、浅田農産という会社の倒産と社長の自殺という痛ましい事件がありました。近畿圏の生協に広く鶏卵を納入していたことからこの会社が堅実な事業経営をしていたことが判ります。平常は10羽単位だった鶏の死亡率が、100羽、1000羽単位と対数曲線を描いて増えていったことに、もしや、鶏インフルエンザに罹ったのではないかと疑ったことは容易に想像できます。一瞬の判断のミスが致命的な結末に繋がります。もし、彼が食品の安全性を第一義に考えていたなら、きっと正直に届け出たのではないのでしょうか。当然、会社にとっては一次的に大きなダメージがあったとしても、自ら命を絶つような事態には陥らなかったに違いありません。同じ時期に、同様な事態に陥った近所の養鶏場が、いち早く届出をしたために、一次的には大きな損失を被ったものの、行政から感謝状まで貰って、事業を継続していることから考えても、自己の利益を優先せずに事業生活を営むことの大切さをしみじみ感じた事件でした。

豚肉や鶏肉を牛肉と偽装表示したり、肉に水を注入して重さをごまかしたミート・ホープや、牛肉の原産地を偽装した船場吉兆の例は、偽物を売ったことで明らかに消費者の信頼を裏切った行為です。賞味期限を偽った雪印乳業、白い恋人、フジヤ、赤福餅も消費者の信頼を裏切った行為には違いありませんが、より新鮮で美味しい食品を消費者に届けようという善意から生まれた賞味期限というあまり学問的な裏づけのない日付設定と、食品の安全性の間に生じる矛盾についてはいささか疑問が残りますし、これらの会社の製品を食べて事故が起こった例を聞かないことも不思議です。外国では食べ残しの食品を「Doggy Bag」に入れて持ち帰るのが普通なのに、日本ではすべて廃棄処分にするという法律も、食品のほとんどを輸入に頼っているわが

国の現状から見ても考え直す必要があるのかも知れません。

不祥事を起こして糾弾される企業がある一方で、経営破綻を起こしたスパークダイエーの創業者中内功氏が社会的に厳しく糾弾されたことがないことも興味ある事実です。売上高日本一のスーパーを育て上げた一方で野心的な事業拡大が裏目となって、経営破綻を招きましたが、彼の流通革命の功績は高く評価され尊敬の念は薄れていません。彼の評価が高いのは、顧客の立場に立って大手メーカーとの衝突しながら、価格破壊を推進したことです。さらに阪神・淡路大震災に当たっては、三宮店の壊滅的な損害にも関わらず、被災者の生活必需品の供給に全力を挙げたことも大きな評価です。すなわち自らが儲けることよりも、社会に奉仕することを優先したのです。

企業に継続的な利益をもたらすはずのロータリーの職業奉仕理念を実践したダイエーが、なぜ経営破たん陥ったか、その真の理由を解明する必要があります。

ホリエモンや村上ファンドの株式買収劇、スチール・パートナーズのM&Aなどの一連の事件を通じて、日本でもやっと「会社は誰のものか」という議論が闘わされるようになってきました。経営学的思考からは、会社は株主のものだという答えが返ってきます。経営者は株主の代理人として株主の利益を最大化するために働くわけであり、もしも株主の期待通りの働きをしなければ、いとも簡単に更迭することが可能です。会社の存在理由は利益の最大化であり、ほとんどのアメリカ人はその考え方で会社を経営しているようです。

しかし日本人の多くはそうのように単純には考えず、会社は事業を通じて地域社会に貢献するために存在するもの、すなわち社員や顧客のものだと考える人が多いようです。株主は資金を提供するために存在

するのであって、社員や顧客が満足度を持てば、結果的に利益があがり株主が儲かることになります。シェルドンの職業奉仕理念もほぼこれと同じ考え方です。

最近では、現代社会においては、経営者や従業員の暴走を止める力を持っているのは株主ではなく、顧客や取引先であると考える人も多く、Yahoo リサーチ・モニターの調査によれば、会社は株主のもの 31.6%、従業員のもの 25.2%、経営者のもの 15.6%、地域社会のもの 15.3% という回答になっています。

J リーグの所有者は誰かを考えてみてください。チームの株主となっている親企業やスポンサーとなっている自治体が所有者であることには間違いありませんが、人気を牽引する選手や監督や役員、サポーターである地元社会の人たち、メディアやスポンサーとなっているスポーツ用品メーカーも所有者だということができます。さらには、対戦相手のチームや観客なしにはチームの存在は考えられません。すなわちチームに関わるすべての関係者が支えあっている社会なのです。

ロータリーも企業に同様な配慮を要求しています。職業は社会に奉仕するために存在し、健全な事業を営もうと思えば、経営者の努力に加えて、従業員、取引業者・下請業者、顧客、同業者などの地域社会や行政などのすべての協力が必要だと考えています。ロータリーではこれらの関係者すべてを総称して Fellows と呼んでいるのです。

人間関係学の面から、事業に成功する方法を考えてみたいと思います。私たちがロータリアンの身分を保っているのも、ロータリーの会合に出られるのも、ひとえに自分の事業が上手くいっているからです。

これは、経営者である皆さま方の力量によるところが大ですが、皆さま方の会社で働いてくれている従業員、事業所に色々な品物を納めてくれている取引業者や下請け業者、事業所から品物を買ってくれる顧客、さらに、私たちの事業が、その町の中で普遍的に営んでいけるのは同業者がいるおかげであることを忘れてはなりません。私たちを取り巻く全ての人たちのおかげで自分の事業が成り立っているのだと考えるならば、自分が得た利益を、自分で一人占めするのではなく、こういった自分の事業に関係する人たちと適正にシェアをしながら、事業を進めていけば、必ずあなたの事業は発展していくはずです。そのような経営方針を採用して事業が発展していく様子を、あなたの事業所をサンプルとして実証すれば、あなたの同業者の人たちは、あなたの事業態度を真似るに違いありません。そうすれば、あなたの所属する業界全体の職業倫理が上がっていくというのが、**He profits most who serves best** の本来の意味です。この考え方は今も昔も変わらない真理です。

企業は社会性、公共性、公益性という社会的責任を負っています。社会性を果たすためには、顧客の求める商品やサービスを、適正価格で、適時に提供する必要があります。公共性を果たすためには、環境保護、独占禁止法違反、粉飾決算、詐欺商法等の反社会行為や公共の福祉に反する商行為をしないことが必要です。公益性を果たすためには、国家や社会に対する貢献度が問われます。

最近の風潮として、単なる売上高や収益率によって企業をランク付けするのではなく、優良企業の判定基準に社会的責任や製品やサービスの品質の高さを加味する傾向が加わってきました。フォーチュン誌が発表した 2007 年度のアメリカで賞賛される企業の判定基準には革新性、人的管理、資産活用、社会的責任、経営の質、財政の健全さ、

製品・サービスの品質、長期投資などの項目があり、ジェネラル・エレクトロニクス、スターバックスに次いでアメリカ・トヨタが第3位にランク付けされています。

シェルドンは、持続して繁栄し発展しているいくつかの企業に共通して見られる特徴を、サービスと名づけました。

販売する商品や提供するサービスの品質が高いことが大切です。特に食品の場合には味覚に加えて安全性が重要なポイントになります。価格が適正であることも大切なことです。品薄の機会を捉えて一時的には暴利を貪ることができても、一旦価格が安定すれば顧客は戻ってはきません。店主や従業員の顧客への態度や気配り、豊富な品揃え、公正な広告、商品や業務に対する知識、アフターサービス、顧客が感じる満足感と公平感、こういったもの全てがサービスであり、サービスの良い店には必ず顧客がリピーターとなって訪れたり、別の顧客を紹介してくれます。更に顧客の満足度の高い事業所は、結果として高い職業倫理を持った事業所だと言うことができます。顧客の満足度を高めるサービスこそが企業の永続的発展と成功を保証する唯一の方法なのです。

シェルドンの職業奉仕理念をまとめて見ましょう。自らが儲けるために職業に就いているという考えを捨てて、顧客の満足度を最優先しつつ、自らの職業を通じて他人に奉仕をするという考えで事業を営めば、その真摯な態度が顧客の心を捉えて、リピーターとして何度も事業所を訪れたり、新規の顧客を紹介してくれるはずです。

その結果大きな利潤が得られるとともに、その事業所は継続的に発展していきます。

そして、そのような事業所は結果として高い職業倫理を持っている

はずです。職業奉仕は職業倫理を高揚することではなく、職業奉仕の実践が結果として高い職業倫理につながるのです。

2008年1月31日

職業奉仕 その原理と実践 3

職業奉仕理念が確定したことを受けて、この理念を具体化するために、1913年のバッファロー大会で特別な道德律を作るためのアンケートを出すことが決定しました。アイオワ州シューシティ・クラブのロバート・ハントが中心になって、その具体的事項を全国のロータリアンから募集したところ、数百にもものぼる提案が集まりました。しかし、彼は個人的事情のため、その役割を同じクラブの会員であるパーキンスに譲りました。パーキンスはシューシティ・クラブの友人数名を委員に任命しました。その中には、かつてシェルドン・ビジネス・スクールの学生であったジョン・ナトソンも含まれていました。

彼らは、それを500語に文章にまとめあげ、1914年のヒューストン大会に提出しましたが、この大会では、この道德律をすべてのロータリアンに送って、研究することが決まり、1915年のサンフランシスコ大会においてほぼ原文のまま採択されて、公式な道德律となりました。

1 自分の職業は価値あるものであり、社会に奉仕する絶好の機会を与えられたものと考えること。

これは綱領上の職業奉仕の項目と一致します。

2 自己改善を図り、実力を培い、奉仕を広げること。それによって、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」というロータリアンの基本原則を実証すること。

ロータリアンの例会を通じて、お互いに職業上の発想の交換をしながら、他人の事業上の取り組み方を参考にして自己改善を図ります。もしも自分の職業態度に問題があれば、それを正さなければなりません。

その結果、経営能力が高まって、**He profits most who serves best** の成果を、自分の事業所で実証することができるのです。

3 自分は企業経営者であるが故、成功したいという大志を抱いていることを自覚すること。しかし、自分は道徳を重んじる人間であり、最高の正義と道徳に基づかない成功は、まったく望まないことを自覚すること。

経営者として、自分の事業を成功させようとすることは当然のことですが、正義と道徳に基づかない事業の発展を望んではなりません。

4 自分の商品、自分のサービス、自分のアイデアを金銭と交換することは、すべての関係者がその交換によって利益を受ける場合に限って、合法的かつ道徳的であると考えこと。

商取引の原点は等価による物々交換であり、それが貨幣を介した交換に変わった時点で、利益という概念が入ったわけです。従って、買った者も売った者も、共に満足しなければ商売は成立しないはずです。

5 自分が従事している職業の倫理基準を高めるために最善を尽くすこと。そして、自分の仕事のやり方が、賢明であり、利益をもたらすものであり、自分の実例に倣うことが幸福をもたらすことを、他の同業者に悟らせること。

6 自分の同業者よりも同等またはそれに優る完全なサービスをすることを心がけて、事業を行うこと。やり方に疑いがある場合は、負担や義務の厳密な範囲を越えて、サービスを付け加えること。

自分が提供した商品や技術は、商法上の期限や民法上の期限を越えて、一生責任を持ちなさいということで、現在の製造物責任法すなわちPL法を先取りしたものです。しかし、これを忠実に守れば、会社は潰れる可能性があるという反発が出て、その後この道徳律が廃止される一つの原因になりました。

7 専門職種または企業経営者の最も大きい財産の一つこそ、友人

であり、友情を通じて得られたものこそ、卓越した倫理にかなった正当なものであることを理解すること。

真の友人はお互いに何も要求するものではない。利益のために友人関係の信頼を濫用することは、ロータリーの精神に相容れず、道徳律を冒瀆するものであると考えること。自分が利益を得るために、友人との信頼関係を利用してはなりません。

8 社会秩序の上で、他の人たちが絶対に否定するような機会を不正に利用することによって、非合法的または非道徳的な個人的成功を確保することを考えてはならない。

物質的成功を達成するために、他の人たちが道徳的に疑わしいという理由から採らないような、有利な機会を利用しないこと。

9 道義的に疑義のあるような条件や、機会を利用した取引はしてはなりません。横流しや不正ルートを利用した取引は、ロータリーの職業奉仕とは程遠い行為と言わざるを得ません。

10 私は人間社会の他のすべての人以上に、同僚であるロータリアンに義務を負うべきではない。ロータリーの神髄は競争ではなくて協力にあるからである。ロータリーのような機関は、決して狭い視野を持ってはならず、人権はロータリークラブのみに限定されるものではなく、人類そのものとして深く広く存在するものであることを、ロータリアンは断言する。さらに、ロータリーは、これらの高い目標に向かって、すべての人やすべての組織を教育するために、存在するのである。

ロータリアンだという理由で特別な配慮をしてはならないし、期待してはなりません。ロータリーの創立当初は、物質的相互扶助として、これが行われていましたが、1913年を以って決別したはずです。

11 最後に、「すべて人にせられんと思うことは、他人にもその通りにせよ」という黄金律の普遍性を信じ、我々が、すべての人にこの

地球上の天然資源を機会均等に分け与えられた時に、社会が最もよく保たれることを主張するものである。

これが、マタイ伝からの引用だという理由で、この道德律を廃止しようという原因の一つになりましたが、これはキリスト教に特有な教義ではなく、同じ意味の教えが論語にも、イスラム教にも、仏教にも書かれています。全ての哲学的な教えの中には、この言葉が入っており、世界共通の教えとも言えます。シェルドンも、「自分が人からしてもらいたいなど思っていることを、先ず人にしてあげなさい」という教義と **He profits most who serves best** は全く同義語であると述べています。

次のような倫理基準を定めた文章があります。

- 1 職業に対する不断の努力が正しく賞賛されるように心がけ、自己の職業の尊さを確信すること。
- 2 事業を成功させて、適正な報酬や利益は受けるべきであるが、自己の立場を不当に利用したり、人に疑われる行いをして自尊心を傷つけてまでも利益や成功を求めないこと。
- 3 事業を遂行するにあたっては、他人の事業を妨害しないように心がけ、顧客や取引先に誠実であり、自己にも忠実であること
- 4 世人に対する自己の立場や行いに疑いが生じたときは、世人の立場に立って解決にあたること
- 5 真の友情は損得の上に築かれるものでなく、心と心の触れ合いによるものであることを自覚し、手段としてではなく目的として友情をもつこと
- 6 国家および地域社会に対する公民の義務を忘れず、かわらぬ忠誠を言動にあらわし、すすんで時間と労力と資力をささげること
- 7 不幸な人には同情を、弱い人には助力を、貧しい人には私財を

惜しまないこと

8 批評は謙虚に、賞賛は惜しみなく、建設を旨として破壊をさけること

これはライオンズ道徳綱領と呼ばれるものです。ロータリーが職業奉仕の理念を持っている唯一の奉仕クラブであると考えるのは身の程知らずの軽薄な考え方であって、ライオンズもこのような立派な倫理基準を持っていることを忘れてはなりません。ただし、ロータリーの職業奉仕理念は、その受益者がロータリアンであり、職業奉仕を実践した結果得られるものが道徳基準であることです。従って、ロータリアンが受益者になる職業奉仕の実践を怠って、道徳基準そのものが職業奉仕であると誤解すると、ロータリーとライオンズの区別がつかなくなるのです。

1929 年から始まった世界大恐慌の時期に、ロータリアンがなしとげた大きな業績の一つに、四つのテストの制定があります。1931 年、包装済食品戸別訪問販売の職業分類でシカゴ・クラブの会員であったハーバート・テーラーHerbert Taylor は、不況のあおりを受けて、莫大な借金を抱え倒産の危機に瀕していたクラブ・アルミニウム社の経営を引き受けることになりました。もしも、会社の再建に失敗すれば、250 人の従業員が仕事を失うことになります。

彼はこの状況から脱出して、会社を再建するためには、道徳的、倫理的な指標がどうしても必要だと考えました。従業員が正しい考え方を持って正しい行動をすれば、会社全体の信用が高まるに違いありません。社員全体が簡単に憶えられて、自分を取り巻く全ての人たちに対して、考えたり、言ったり、行動したりするときに応用できる、道徳的な指標が必要であることに気づいたのです。社長室の机の前で頭

をかかえながら、思い浮かんだ 24 語の言葉を書き留めたのがこの四つのテストです。

この四つのテストは倒産の危機に瀕した会社を立ち直らせるための純然たる経営上の指針であることに留意しなければなりません。四つのテストは、学校や駅に張り出したりして日常生活に適用するものではありません。その使用を事業上の取引に限定すると共に、邦訳や解釈を厳密にする必要があります。

Four-way test 四つのテスト

「事業を繁栄に導くための四通りの基準」ならば、当然 **Four-way tests** と複数形になるはずですが、これが単数形であるのは、事業を繁栄に導くためには、四通りの基準を一つずつクリアすればいいのではなく、四つ纏めたものを一つの基準として、そのすべてをクリアしなければならぬことを意味します。ロータリーの綱領が **Object of Rotary** と単数形であり、四つの項目が渾然一体となって、一つの綱領を形作っているのと同様です。

Is it the truth? 真実かどうか

商取引において、商品の品質、納期、契約条件などに嘘偽りがないかどうかは、非常に大切な基準です。真実というのは、「80%の真実」という言葉が示すように、人間の心を通じたアナログ的な判定であるのに対して、事実とはその事実があったのか、無かったのかの二者択一を迫るデジタル的判定ですから、ここでは「事実かどうか」「嘘偽りがないかどうか」という言葉を用いるべきでしょう。

Is it fair to all concerned? みんなに公平か

fair と all concerned という言葉の翻訳に問題があります。fair は公平ではなく公正と訳すべきでしょう。公平とは平等分配を意味するので、例え贈収賄で得た unfair 不正なお金でも平等に分ければ、それでよいことになります。all concerned は all だけが訳されており、肝心の concerned が省略されています。冒頭に述べたように四つのテストは「商取引」の基準として定めた文章ですから、この concerned (関わりのある人、関係する人) は「取引先」のことを意味することは明白です。従ってこのフレーズは「すべての取引先に対して公正かどうか」ということを意味します。

Will it build goodwill and better friendship ? 好意と友情を深めるか

goodwill は単なる好意とか善意を表す言葉ではなく、商売上の信用とか評判を表すと共に、店ののれんや取引先を表します。すなわち、その商取引が店の信用を高めると同時に、よりよい人間関係を築き上げて、取引先を増やすかどうかを問うものです。「信用を高め、取引先をふやすかどうか」と訳すべきです。

Will it be beneficial to all concerned ? みんなのためになるかどうか

Benefit は「儲け」そのものを表す言葉です。商取引において適正な利潤を追求することは当然なことであり、決して恥ずべきことではありません。ただし、売り手だけが儲かった、また買い手だけが儲かったのでは公正な取引とは言えません。その商取引によって、すべての取引先が適正な利潤を得るかどうか問題なのです。「すべての取引先に利益をもたらすかどうか」と訳すべきでしょう。

私たちのまわりではいろいろなことが起こっています。私たちは自分に貸与された職業分類の代表者としてロータリークラブに属している関係上、最も大きな関心事は事業上起こる諸問題ではないかと思っています。

企業の不祥事がマスコミに報道されるたびに、どうかロータリアンでないようにと祈りながら全国会員名簿を検索するのは私だけではないと思います。そして残念なことにはその名前を全国会員名簿に見つけることも多くなりました。

すでに述べた通り、つい先日も、賞味期限や原材料を改ざんしたミルク・菓子・食肉会社の虚偽表示や隠蔽事件がマスコミを賑わしました。

事業主だけが利益を独占するのではなく、利益はすべての関係者に適正に再配分しなければなりません。

従業員の技能を適正に評価し、公正な従業員対策をしなければなりません。

これらの企業犯罪が表面化するのには、つもり積もった従業員の不満が爆発して内部告発となり、会社の屋台骨を揺るがす事態に発展することを忘れてはなりません。

社会に奉仕するために職業が存在することを忘れた人たちが虚業に群がって、自己の利益を追求するために株式の不正取引や会社乗っ取りにうつつを抜かします。会社を立ち直らせるための M&A は立派な実業ですが、自らの利益を追求するための M&A が虚業であることは、いまさらスチール・パートナーズに対する東京高裁の判断を仰がなくても、100 年も前からロータリーの職業奉仕哲学に明記されている原則なのです。

常に新しいサービスや商品を開発する努力も必要です。これらの努力が会社を発展させるための職業奉仕活動の実践なのです。

談合、贈収賄といった不公正競争や公取法違反の事件も後を絶ちません。業界の慣習だから、自分の会社だけでは是正できないと言い訳をする人もいます。しかし、ロータリアンは業界に派遣された大使として、ロータリーの提唱する職業奉仕理念をその業界に広める義務があるのですから、敢えてその困難に立ち向かわなければなりません。最も大切なことは、構造的な犯罪とも言われる不公正競争を是正することです。贈収賄や談合を業界の慣習として是認するのではなく、これを恥ずべき犯罪として肅清する勇気と努力が必要です。

ロータリーは自由主義経済を前提として生まれた組織です。自分の会社で作った素晴らしい製品を、それを必要とするすべての顧客に届けるのが原則であり、その意味からは、日本ではごく当たり前になっている系列化とか、一社に直属した下請制度は、ロータリーには馴染みません。親会社の指示によって、生産ラインを増強しても、その製品を必ず親会社が引き取ってくれるという保障はありません。一社に頼らず、どこの会社にも納入できる素晴らしい製品を常に開発することが、企業を生き残らせる大きな要素なのです。一世を風靡した「看板方式」も、自社で作った部品を能率よく製造ラインに届けるのならばともかく、下請け会社のリスクで行うのならば、ロータリーの職業奉仕とはかけ離れた行為と言わざるを得ません。

現在、約束手形を使っているのは、世界中で日本と韓国だけで、それ以外の国では使っておりません。この約束手形は零細な下請業者を泣かす大きな原因になります。弱い業者ほど、高い割引料を払って現金化しなければなりません。支払元が倒産でもすれば、ただの紙切れ

にしか過ぎません。ロータリアンの取引は双方が満足する取引であることが原則ですから、相手にリスクを負わせる手形決済はロータリーには馴染みません。

事業を発展していくためには、世間から受け入れられる経営態度が必要です。業界の代表であるロータリアンは、同業者を競争者としてライバル視するのではなく、自分たちの仲間として協力しながら、業界全体の繁栄を図る必要があるのです。

ロータリアンがその職業分類の代表として業界に派遣されている以上、業界における職業奉仕の実践もロータリアンの使命といえます。このような不祥事を自らが起こさず、自らの属する業界からも起こさないようにすること、すなわち職業倫理高揚が、職業奉仕活動実践の側面であることを忘れてはなりません

職業を持っているロータリアンは、自らの職業を通じて奉仕活動の実践をすることができます。しかし、ロータリークラブは職業を持っていませんから、直接職業奉仕活動を実践することは不可能です。しかし、職業奉仕とは何かをロータリアンに教えることは可能です。クラブの職業奉仕委員会が中心になって、正しい職業奉仕の理念を会員に周知徹底してください。

また、クラブ内外のロータリアンが行っている職業奉仕活動の事例を集めたり、各種の職業情報の詳細を伝えることも有意義な活動の一つです。

不祥事を起こす本人が悪いのは当然ですが、そのような人を出したクラブにも大きな責任があります。クラブの中に真の親睦が存在すれば、またクラブの中にどんなことでも相談できる雰囲気があれば、その不正行為を思い留まらせることが可能であったはずです。すなわち

そのクラブには真の親睦が存在しなかったことを証明しているのです。親睦の存在しない組織では、保身のためにお互いが悪い意味でかばいあい、往々にして悪貨が良貨を駆逐し、腐った林檎がまわりの林檎を腐らせるものです。

ロータリアンは、まず自分の事業の繁栄を考え、次に自分が属する業界全体の繁栄を考え、究極的には地域社会全体の繁栄を図らなければなりません。

日本のロータリアンには優れた技術を持っている零細企業や中小企業のオーナーが沢山います。電子レンジの技術として開発され、結果として携帯電話やコンピューターやステルス戦闘機にまで取り入れられた電磁波吸収塗料、あらゆる物質に可能なメッキ技術、ナノの単位の金属加工技術、こういったものは、全て日本の小さな町工場が開発された技術です。また、目を閉じていても、リンスかシャンプーかが判るように、キャップの形を変えた洗剤メーカーも立派な職業奉仕の実践者です。

ロータリアンはその業種の代表者ですから、ロータリアンだけではなく、地域社会のこういった優れた技術を国際的に紹介したり、仲介する責任を持っているはずで、WCS の交換プロジェクトのような技術登録バンクを作って、お互いに利用できるようなシステムを作り、クラブ・レベル、地区レベル、世界レベルに拡げていくことも、新しい観点からの職業奉仕になるのではないのでしょうか。

若干、本来の職業奉仕からは外れるかも知れませんが、特殊の技能を持った人材を広く内外に紹介することも、地域の産業に大きく寄与する活動です。

最近はインターネットを通じた情報が入り乱れています。特に青少年に大きな影響を与えている不良サイトが問題になっています。ロータリアンが経営しているプロバイダーも数多くあると思いますので、これらの人が中心になってこの業界から青少年に悪い影響を与えている不良サイトをなくする運動を進めることも可能だと思います。同様にインターネットを経由して取引される麻薬や銃などの禁制品も、郵便事業に携わるロータリアンの世界的な結びつきを利用して防止することも決して不可能なことではありません。また、ロータリー親睦活動のネットワークを通じて、数々のボランティア活動を同業者に呼びかける活動も必要です。

ロータリアンには受益者のニーズに適応した奉仕活動を実践する責務が課せられています。安全な食品を口にしたいというニーズがあれば、ロータリアンは安全な食品を提供できるように、職業奉仕の実践活動を展開しなければなりません。貧困や疾病から逃れたいというニーズがあれば、ロータリアンはその分野における人道的奉仕活動を実践しなければならないのです。

理念の裏づけのない実践活動を行ったり、奉仕理念の研鑽を怠って、奉仕活動の実践にのみに狂奔するのも困りものですが、もっと始末に負えないのが、理屈だけを弄して、全く奉仕活動の実践には無関心な会員の存在です。ロータリーの綱領は、決議 23-34 は、職業奉仕理念はと、理屈をこねますが、WCS やその他の人道的奉仕活動にまったく参加したことがない人が余りにも多いのが日本の現状です。それも或る程度の年齢で、在籍年数も長い会員に多いようですが、その知識が決して深くないことは、何か事があると決議 23-34 と言いながら、その第 4 条「奉仕するものは行動しなればならない。ロータリー哲学も単に主観的なものであってはならず、それを客観的に行動に表さな

ればならない。」を自ら証明していないことから明らかです。理屈をこねる会員は往々にしてこのような二重人格を持っていることが多いようです。ロータリーの哲学は実践哲学であり、職業奉仕も例外ではないことを忘れてはなりません。

2008年2月6日

2007年クラブ定款上の四大奉仕の解説

クラブ・リーダーシップ・プラン(CLP)の導入のために、2005年にRIは新たな推奨クラブ細則を制定して、その中で従来の四大奉仕に基づく委員会構成の代わりに、奉仕活動の実践に重きを置いた新たな委員会構成を提示しました。これは従来のクラブ奉仕委員会を会員増強委員会、クラブ広報委員会、クラブ管理運営委員会に分割し、職業奉仕委員会と社会奉仕委員会と国際奉仕委員会を統合して奉仕プロジェクト委員会とし、さらにロータリー財団委員会を独立して設置するというものです。

この四大奉仕の原則を無視した委員会構成の考え方に、RI理事の中からも異論が出ていることは、国際大会においても、さらに先般開催された国際協議会においても、RI会長やRI理事からCLPに関するコメントが一切なかったことや、その後CLPに関する情報や新しい資料が一切出ていないことから、RI理事会内部でも、これを進めようとするグループとこれに消極的なグループ間の意見の不一致があることを伺わせます。

四大奉仕を無視した委員会構成を牽制する意味で、RI理事会が標準ロータリークラブ定款上であらためて四大奉仕を位置づける提案を、2007年規定審議会に提案し、これが採択されたことから、今後はクラブ・リーダーシップ・プランの流れが勢いを緩めるものと考えられます。

2007年規定審議会で新しく採択された標準ロータリー・クラブ定款に記載された四大奉仕に関する規約は次の通りです。

第5条 四大奉仕部門

ロータリーの四大奉仕部門は、本ロータリー・クラブの活動の哲学のおよび実的な規準である。

1 奉仕の第一部門であるクラブ奉仕は、本クラブの機能を充実させるために、クラブ内で会員が取るべき行動に関わるものである。

2 奉仕の第二部門である職業奉仕は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理想を生かしていくという目的を持つものである。会員の役割には、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行うことが含まれる。

3 奉仕の第三部門である社会奉仕は、クラブの所在地域または行政区域内に居住する人々の生活の質を高めるために、時には他と協力しながら、会員が行うさまざまな取り組みから成るものである。

4 奉仕の第四部門である国際奉仕は、書物などを読むことや通信を通じて、さらには、他国の人々を助けることを目的としたクラブのあらゆる活動やプロジェクトに協力することを通じて、他国の人々とその文化や慣習、功績、願い、問題に対する認識を培うことによって、国際理解、親善、平和を推進するために、会員が行う活動から成るものである。

1927年のオステンド国際大会で、ロータリーの奉仕活動を四大奉仕に分類する **The Aims and Objects Plan** が採択されて、クラブ理事会の下に **Aims and Objects** 委員会が置かれ、その下にクラブ奉仕委員会、職業奉仕委員会、社会奉仕委員会、国際奉仕委員会を設置してそれぞれの委員長が理事を務めるという現在の四大奉仕委員会制度が生まれました。

「ロータリーの綱領」は四大奉仕を説明したものだという人がいますが、それが間違いであることは、当時のロータリーの綱領は6項目からなるものであり、現在のように4項目の綱領ができたのは1935年になってからのことから明らかです。そう考えると、ロータリーの奉仕理念を規定した四大奉仕が、なぜ今まで定款や細則に収められなかったのかが逆に不思議な感すらします。

四大奉仕は奉仕活動の実践に基づいた分類だと一般に考えられてきましたが、四大奉仕は哲学(奉仕理念)と实际的(奉仕活動の実践)の両面からの基準であることが冒頭に説明されています。

第一項ではクラブ奉仕の目的を、クラブの機能を充実させるためにクラブ内で会員が取るべき行動であると規定しています。

第二項では「綱領」の中で述べられている職業奉仕の目的を再掲すると同時に、ロータリーの奉仕理念に基づいて事業を営むことが「会員の役割」として明記されています。1987年に40年ぶりに設置されたRI職業奉仕委員会が発表した「職業奉仕に関する声明」で問題になっていた「クラブの役割」という文言を、定款上で敢えて削除したことにも大きな意味があります。職業を持っている個々のロータリアンが職業奉仕の実践を行えたとしても、職業を持たないロータリー・クラブがどのようにして職業奉仕の実践を行うかについて疑念が持たれてきたからです。

第三項では現行の「綱領」には直接記載されていない社会奉仕の定義が明記されています。ただし、対象を敢えてクラブの所在地域または行政区域内に限定したことにはいささか疑義を感じます。これは国際奉仕の守備範囲とあえて区分するためと思われるのですが、将来のCommunityの範囲は地球全体と考えるべきでしょう。

第四項は現行の「綱領」とはかなり異なった定義となっています。「他国の人々を助けることを目的としたクラブのあらゆる活動」は

WCS を念頭に置いた表現だと考えられ、従来から「綱領」にそぐわない活動だと陰口を囁かれてきた WCS を、国際奉仕の活動の一部として正式に認めたものと考えられます。さらに国際理解、親善、平和を推進するためのすべての活動をこれに加えることによって国際奉仕の活動の場を広げた解釈となっています。

2008年2月26日

ロータリー進化論

地球が誕生したのは46億年前であり、40億年前には海ができました。そして、38億年前に海底のマグマ噴出孔付近で起こった化学反応の中からアミノ酸が合成されて生命の源が誕生したと言われていいます。最初の単細胞生物が現在の生物の起源とも言われる多細胞生物に進化したのが10億年前、さらに最初の脊椎動物の誕生したのが5億5千万年前のカンブリア紀です。

空气中に酸素がないために、陸上では生物が生存できなかった5億年前の古生代前半に魚類が誕生し、硬い鱗をまとった大型の魚類が食物連鎖の頂点にいました。弱い小型の魚は大型の魚から逃れるために浅海から川に移動しました。地上で植物が生長して大気中に酸素が含まれるようになった3億5千万年前には、魚は両棲類を経て爬虫類に進化して地上の生活を始めました。爬虫類の頂点である恐竜が陸上を支配していたのは2億3千万年前とされています。小型の哺乳類は爬虫類から逃れるために穴倉や樹上で生活をし、やがて霊長類に進化します。6千5百万年前に突然恐竜が絶滅しますが、その理由は判りません。その後5百万年前に人類の祖先が出現し、20万年前には旧人、更に2万年前には新人が出現し現在に至っています。

このように生命の歴史を振り返れば、一旦強さで食物連鎖の頂点に達しても、大きな環境の変動が来れば適応できない生物は、否応なしに消え去らざるを得ないことが判ります。次の世代に向かって種を保存することができるのは、決して強い生物ではなく、環境の変化を先取りして進化していった生物だけなのです。豊富なミネラルがあったからこそ海で生物が誕生し、空中から酸素を取るために鰓から肺に進

化したからこそ陸上の生活が可能となり、色覚を得たからこそ熟れた果実を見分けることが可能になったのです。

現在食物連鎖の頂点にあり、わが世の春を謳歌している人類が、避けることのできない環境の変化や自然の淘汰によって、また自らが招いた危機によって絶滅する危険性は極めて大きいのです。

生物の目的は種を保存すること、すなわち生き抜いていくことです。生き抜いていくために体型を変化させたり、生活様式を変えていかなければなりません。究極の目的に向かって、環境に適応するために、組織構造を変えたり行動を変えたりすることは自然の摂理であることを、この生命の進化から学ばなければなりません。

会員の減少によって、ロータリーに限らずライオンズもキワニスもすべての奉仕団体は存亡の危機に立たされています。その中で次の世代に向かって、その活動を継続していくためにはどうしたらよいかを考えなければなりません。

「世界は絶えず変化しています。そして私たちは世界とともに変化する心構えがなければなりません。ロータリー物語は何度も書き替えられなければならないでしょう。」

「ロータリーがその適正な運命を理解するとしたら、ロータリーは必ず進歩しなければなりません。時には革命が起こる必要があります。」

これは、ポール・ハリスが残した有名な言葉です。この言葉を例に出して、ロータリーは変わらなければならないことを力説する人も多いようですが、ロータリーにおいて、「変えなければならないもの」と「変えてはならないもの」をはっきり分類しておく必要があります。

ロータリーが他の奉仕団体と本質的に違う点は職業奉仕の概念を持っていることです。職業奉仕の理念を捨て去ってボランティア組織に移行することの愚かさを自覚しなければなりません。今からボランティア組織に看板を塗り替えたところで、数ある先発ボランティア組織の影に埋没してしまうことは必至です。すなわち、ロータリー固有の奉仕理念は変えてはならないことを再確認する必要があります。絶対に変えてはならないものは「ロータリーの哲学」すなわち「ロータリーの奉仕理念」です。ロータリーの哲学を変えれば、それはロータリーではなくなってしまうからです。

ロータリーの奉仕理念については次の二つのドキュメントに記載があります。その一つは「決議 23-34」であり、「This philosophy is the philosophy of service - “Service Above Self” - and is based on the practical ethical principle that “He profits most who serves best” この哲学は Service above Self の奉仕の哲学であり、He profits most who serves best という実践倫理に基づくものである。」と Service above Self と He profits most who serves best がロータリーの奉仕理念であることが明記されています。

もう一つのドキュメントは、RI から毎年発効される Official Directory RI 会員名簿であり、その最終ページの「A brief history of Rotary」には「Rotary clubs everywhere have one basic ideal - the “Ideal of Service,” which is thoughtfulness of and helpfulness to others. いかなる場所においても、ロータリークラブは一つの基本理念—「奉仕理念」を持っている。それは他人のことを思い遣り、他人のために尽くすことである。」というチェスレー・ペリーの言葉が記載され、Service Above Self の真意が説明されています。

ロータリーの奉仕理念は、奇しくも決議 23-34 に明記されている **He profits most who serves best** と **Service Above Self** の二つのモットーであり、この二つのモットーはどんなことがあっても絶対に変えてはならない奉仕理念であることを強調しておきたいと思います。奉仕理念とはロータリー哲学そのものであり、哲学は万古不易なものであることは、当然なことです。

生物が種を保存することすなわち生き抜くことを唯一の目的にしてきたように、ロータリーもその奉仕理念を達成することを目的にして生存競争に勝ち抜かなければならないのです。

変えてはならないものがある一方で、変えなければならないものに、RI・地区、クラブの管理運営があります。組織の管理運営を長年変更せずに放置しておく、必ず制度疲労を起こします。

これは生物が水中で生活するために魚に進化し、陸上で生活するために両棲類、爬虫類、霊長類を経て人類に進化したように、その組織構造を変えていく必要があるのです。

組織の管理運営は時代の変化に応じて思い切った改革を試みる必要があります。ロータリーの組織を全世界に広げるためには、異文化や地域特性や言語を尊重して、連邦制のような中間管理組織による運営が好ましいと思います。ロータリーは資本主義社会から発生した組織なので、社会主義国の参加は難しいとしても、イスラム圏を忌み嫌う必要はありません。現在のアメリカン・スタンダードではないグローバル・スタンダードに基づいた組織管理に改める必要があります。

更に活動の効率を高めるために、地区組織やクラブ組織の合理的な統廃合や新しい分野の組織創設を絶やしてはなりません。

生物が環境に適応するために、鰓が肺に進化し、鰭が手足に進化し、四足歩行が二足歩行になり、色覚を備えたように、奉仕活動の実践内容は地域社会のニーズの変化に適応したものに変えていく必要があります。ニーズの変化に適応することは環境の変化に適応することを意味するのです。そのためには悪戯に机上の空論を弄ぶのではなく、常に地域社会の人々が必要とするプロジェクトを探して、それが実現するように全力を傾注しなければなりません。

こういった改革をすることなしには、ロータリーという組織が次の世紀に生き残ることができないことを肝に銘じなければなりません。

2008年3月5日

犬の十戒

今、「犬の十戒」という作者不詳の詩が、犬の愛好家の中で爆発的に広がっています。今犬を飼っている人も、これから犬を飼おうとしている人も、ぜひこれだけは知っていてほしいと犬の立場から語られた詩です。

奇妙しくもの先週の土曜日から「犬の十戒」をアレンジした「犬と私の 10 の約束」という映画のロード・ショーが始まり、全国的に話題になっているようです。今改めてこの詩を読み返し、15歳を目前にしてこの世を去った私の愛犬アレックスのことを思い出しています。

アレックスは正式の名前をアレクサンドラと言う、30キロの雌のアラスカン・マラミュートです。当時ホノルルに住んでいた上の娘が知り合いから分けてもらったのを私が日本に連れてきました。1995年の1月10日に同じ飛行機に載せて連れてきましたが、関空の検疫所の2週間の留置期間中に阪神大震災が起こったので、震災直後の大渋滞の中を長時間かけて関空まで引き取りに行ったという忘れられない思い出があります。

私は犬は家族の一員だと思っていますので、室内で飼っていましたが、死ぬ直前まで用便は必ず知らせて、粗相をしたことは一度もないいい子でした。

私がガバナーを終えた頃は、毎日のようにオートバイで散歩に連れて出たものです。時速30キロ位で芦屋河畔の道を走るのが日課でした。時間があるときには海岸に下りて、楽しそうに波打ち際で走り回っていました。

晩年には日中はリビングのソファに、家内とアレックスと猫2匹

が、それぞれ縄張りを確保して、「コックリ、コックリ」と午睡をむさぼっていました。

毎日1時間の散歩と食事は家内の日課になっているにもかかわらず、アレックスは私を完全にボスと信じきっているらしく、どんな命令にも絶対服従します。外出時には必ず付いてこようとするので、「お父さんはお仕事」というとすごすごと引き返します。どんなに遅く帰って来ても必ず玄関まで迎えに出てくる忠実さは家内以上でした。

夜は私のダブル・ベッドの半分を自分の寝場所と決めており、私がベッドに入ると、自分の身をずらして、私の寝場所を譲るという細かい配慮まで示します。

もっとも13歳ころからは大型犬特有の関節炎のせいで二階に上がる階段が苦痛になり、夜もリビングのソファで寝るようになりました。

ロータリーの所用で家内と一緒に旅行に行くときには、仕方なくペット・ハウスに預けることにしていましたが、これと、動物病院に行くのが何よりも嫌いで、脚を踏ん張って車から降りるのを拒否し続けました。

ペット・ハウスの檻から我が家に逃げ帰ろうとして、分厚い扉を一晚中噛み続けて、ステンレスの板をひんまげた代わりに前歯を折ったこともありました。避妊手術のために入院させたときにも脱走を試みて、病院の檻の扉、入院室と診察室の間の扉をことごとく壊して、玄関の扉に体当たりしているところで見つかってしまったこともありました。

その代わり迎えに行ったときの喜びようは只事ではありませんでした。

自分は喋れないくせに、こちらの話していることはほとんど理解できているらしく、特に自分に関係する話題には身を乗り出して聞き入っているようでした。外食をしにいく話や旅行に行く話は禁物で、その気配を察しただけで玄関で防御線を張られる始末でした。

昨年の正月過ぎ、私が腹部大動脈解離のため人工血管置換の大手術を終えて退院した頃から、アレックスの関節炎がひどくなってほとんど横になって過ごすようになりました。アレックスを病院に連れて行くのも大仕事でした。私も病後のことなので抱きかかえて車の後部座席に運ぶのもままならず、ついにワン・ボックス・カーに買い換えるはめになりました。

3月頃から、自分ひとりで立ち上がることができなくなりました。用便の時には知らせるので、タオルをループ状に脚の付け根に巻いて引き上げてやると、おぼつかない足取りで歩いて庭の片隅で済ませる日が続きました。

5月20日過ぎからほとんど食事をとらなくなったので、家で点滴を続けました。以前から甘いものが大好きだったので、クリーム・パンをやると一口二口食べたのが最後の食事になりました。痛がって泣くので3時間おきにモルヒネを注射してやりましたが、5月31日に安らかに息を引き取りました。

最後まで面倒を見てやれたのがせめてもの慰めだったと思っています。

後2週間で15歳を迎える初夏の夕刻でした。

多分今頃は「虹の橋」のたもとで私たちがいくのを待っていると思います。「虹の橋」については次回にご紹介したいと思います。

『犬の十戒』

- 1 私の一生は10～15年くらいしかありません。
ほんのわずかな時間でもあなたと離れていることは辛いのです。
私のことを飼う前にどうかそのことを考えてください。
- 2 私が「あなたが私に望んでいること」を理解できるようになるまで時間が必要です。
- 3 私を信頼して下さい。それだけで私は幸せです。
- 4 私を長時間叱ったり、罰として閉じ込めたりしないで下さい。
あなたには仕事や楽しみがありますし、友達だっているでしょう。
でも……私にはあなただけしかいないのです。
- 5 時には私に話しかけて下さい。
たとえあなたの言葉そのものはわからなくても、
私に話しかけているあなたの声で理解しています。
- 6 あなたが私のことをどんな風に扱っているのか気づいて下さい。
私はそのことを決して忘れません。
- 7 私を叩く前に思い出して下さい。
私にはあなたの手の骨を簡単に噛み砕くことができる歯があるけれど、私はあなたを噛まないようにしているということ。
- 8 私のことを言うことをきかない、頑固だ、怠け者だとしかる前に
私がそうなる原因が何かないかとあなた自身考えてみて下さい。
適切な食餌をあげなかったのでは？
日中太陽が照りつけている外に長時間放置していたのかも？
心臓が年をとるにつれて弱ってはいないだろうか？などと
- 9 私が年をとってもどうか世話をして下さい。
あなたも同じように年をとるのです。

10 最期の旅立ちの時には、そばにいて私を見送ってください。

「見ているのがつらいから」とか

「私のいないところで逝かせてあげて」なんて言わないでほしい
のです。

あなたがそばにいてくれるだけで、どんなことでも安らかに受け
入れられます。

そして・・・どうか忘れないで下さい。

私があなを愛していることを。

2008年3月18日

虹の橋

45年ほど前、ちょうど芦屋で眼科を開業したばかりで、まだ借家住まいをしていたころ、以前済んでいた住人が残していった犬2頭を可哀想に思って飼ったのが、我が家におけるペットとの付き合いの最初でした。ロンとハリーという血統書つき？の雑種はその恩義に応えてか、娘二人の幼稚園の登園のお供をし、幼稚園が済むまで門の前で待っていて、一緒に帰ってくるという日課を忠実に守ってくれました。

この2頭が老衰のため相次いで逝った後、コリー、ポメラニアンと常に犬と一緒に生活を送っていましたが、我が家で取り上げたポメラニアンの二世を直射日光下にハウスを置き忘れて殺してしまうという事件があってから、ペットを飼うのを止めにしました。

それまで、ずっと動物と一緒に生活を続けていた二人の娘たちは、高校卒業と同時に渡米しましたが、アメリカでは猫と一緒に生活を続けていました。下の娘が結婚のためにホノルルからニューヨークに移る際、二ヶ月ほど日本に帰ってきました。その際に連れ帰った猫に刺激されて、娘がアメリカに嫁いだ後、我が家でも猫を飼い始めました。最初の猫は向かいのタバコ屋さんから貰ってきたアメリカン・ショートヘア mix のリラ、翌年には右が金眼、左が銀眼のポピー、そして3匹目が前回ご紹介したアラスカン・マラミュートの愛犬アレックスです。

ポピーは16才、リラは18才、アレックスは15才でこの3年の間に次々この世を去りました。いずれも長生きをしたいい子ばかりでした。

下の娘の猫はニューヨークで21才まで長生きしましたが二年ほど前に大往生を遂げました。

上の娘は動物好きが嵩じて、MBA まで取りながら一念発起してワシントン州立大学の獣医学部に入り直し、現在シアトル郊外で獣医をしています。アメリカ北東部唯一の日本人獣医ということで、なんとか忙しくやっている模様です。家は犬3匹、猫4匹、亭主一人の大所帯です。

さて、前回犬の十戒をご紹介しましたが、とても反響が大きく、多くの方からお手紙をいただきました。どうやらロータリーの話よりも好評のようで複雑な心境です。

今回は約束通り「虹の橋」をお届けします。この詩はインディアンの中で伝わった詩といわれていますが作者が誰かは判りません。

人間に愛されながら先立った動物は、天国に行く虹の橋の前で、主人が来る日まで待っているという詩です。またこの詩には「虹の橋で」という別のバージョンがあり、動物に縁のなかった人でも本来は生涯を共にするペットがおり、死ねば共に虹の橋を渡って天国に行くという話しです。

私は今のところまだ死ぬわけにはいきませんが、私が可愛がっていた、大勢の動物たちと虹の橋の手前の草原で再開する日がいつかは来ることだけは確かです。

虹の橋

田中毅 翻訳

天国に行くちょっと手前に、

虹の橋と呼ばれる場所があります。

この世に住んでいるあなたが特別に愛していた動物が死ぬと、

虹の橋に行くのです。

そこで、この世を去ったあなたの大切な友は、
草むらや丘を駆け巡って遊んでいます。
十分の食物と水と日の光を浴びながら、
動物たちは暖かく快適に過ごしています。

病気だった動物も年老いた動物も、健康と活力を取り戻し、
傷ついたり、不具になっていた動物も、
過ぎし日の夢を取り戻したように、強くたくましく甦るのです。
動物たちは幸せに満ちて満足しています。

しかし、一つだけささやかな不満があるのです。
それは、自分にとって一番大切なあなたがここにいない寂しさ、
あなたを残してきた寂しさです。
動物たちは皆一緒に走り回って遊んでいます。

ある日のこと、一匹の動物が突然立ち止まり、
はるか彼方を見つめます。
その瞳はキラキラし輝き、
喜びに満ちた体は小刻みに震え始めます。

突然、その動物は群れから離れて、
緑の草原を飛ぶように走りだします。速く、速く・・・
あなたを見つけたのです。
あなたとあなたの最愛の友はやっと会うことができたのです。

あなた方は固く抱き合い、二度と離れることはありません。

幸せのキスはあなたの顔に降り注ぎ、
あなたの手は最愛の友を優しく撫ぜながら、
信頼に満ちた友の瞳を見つめます。
ずっと前にあなたの前から消え去ったけれど、
あなたの心からは決して消え去らなかつた友の瞳を。

そして、あなた方は一緒に虹の橋を渡っていくのです。

虹の橋で

天国とこの世を結ぶ橋があります。
その橋は豊かな色彩に包まれているので、
虹の橋と呼ばれています。

虹の橋の手前には、
草原や丘や緑に覆われた谷があります。

いとしいペットが死ぬと、
ここにくるのです。
そこには、いつも食物と水があり、
いつも春のような暖かい天気です。

年をとったり病気になった動物は、
再び若さと元気を取り戻します。
不具の動物は元通りの体に戻ります。
そして、一日中一緒に遊んでいます。

橋の側には、皆とすこし様子の違う動物もいます。
疲れきって、飢えて、苦しめられて、愛されたことのない動物たちです。

ほかの動物たちが一匹また一匹と、
特別に愛してくれた人と一緒に橋を渡っていくのを、
物欲しげに見つめているのです。

彼らには特別に愛してくれた人はいません。
彼らが生きていた間に、そんな人は一人も現れませんでした。
しかし、ある日、そんな動物たちが走ったり遊んだりしていると、
橋のたもとの道にたたずんでいる一人の人に気付きます。

生前に動物を飼ったことのないこの人は、
友との再会の情景を物欲しげに見つめます。
この人も、疲れきって、飢えて、苦しめられて、愛されたことがなかったのです。

そんな人が一人ぼっちでたたずんでいると、
愛されたことのない動物が、
なぜ一人ぼっちなのだろうと、不思議そうに近づいていきます。

愛されたことのない動物と、愛したことのない人がお互いに近づくと、
奇跡が起こります。

この世では会う機会のなかった特別な人と愛すべき動物は、
共に生きる運命にあったからです。

今ついに虹の橋のたもとで、
彼らの魂は再開を果たし、
痛みも悲しみも消えて、
二人の友は一緒になったのです。

彼らは虹の橋を共に渡り、
二度と別れることはないのです。

2008年3月25日

ロータリーの綱領とその遵守義務

「ロータリーの目的は何ですか」という質問に対して、即座に適切な回答を返すことのできる人は極めて少ないと思います。これは「object of Rotary」の公式邦訳が「ロータリーの綱領」であって、「ロータリーの綱領」を説明すればすなわち「ロータリーの目的」を説明したことになるということに気付かない人が多いからです。

「object of Rotary」を「ロータリーの目的」と素直に訳しておけば何の問題も起こらなかったのに、どこかの愚かな日本人が、格好をつけて、これを「ロータリーの綱領」と訳してしまったために、「ロータリーの目的」を尋ねられても、即座に答えられない日本人のロータリアンを作ってしまったとも言えます。

いつごろから「ロータリーの綱領」という言葉が定着したのかを調べてみると、日本にロータリー運動が定着した当初は「ロータリーの目的」と「ロータリーの綱領」という二つの表現が共存していたことが判ります。

米山梅吉は1930年5月25日に発行された月信の中で「日本のロータリークラブは特にロータリー綱領の第六目的を達成するに偉大なる効果を収め居候ことと存候」という表現をしている一方で「ロータリーの第六の目的即ち世界平和の招來に資せんとする、社会の第一線に立てる教養ある人士を以て成れるに敬意を表す」とも述べており、「ロータリーの目的」と「ロータリーの綱領」双方を使っています。すなわち、かなり早い時期から「ロータリーの綱領」という訳が通用していたことになります。

井坂孝は1932年8月20日の月信で「ロータリーノ六ヶノ目的中何

レニ大小軽重ハナキ筈ナレドモ」と当時の6項目のロータリーの綱領を解説していますが、彼の在任中は「ロータリーの綱領」という表現は一切使わずに「ロータリーの目的」一本で通しています。

1939年に京城(現在のソウル)で開催された第10回地区大会では「ロータリアンの主義精神」という表題の下で「ロータリーの目的」という用語が使われて、現在の「ロータリーの綱領」が紹介されています。

ロータリアンの主義精神

ロータリーの目的は尊むべき事業の根本精神として奉仕の理想を奨励哺育するにあり、特に

一、奉仕の機会を作る為に交際を廣くすること

二、商業又は専門的職業に於て崇高なる徳義上の標準を高め凡て有益なる職業の真価を認め、亦社会奉仕の為め職業そのものに権威あらしむること

三、ロータリー合員はその個人と職業と社会的存在との別なく常に奉仕の理想を実際化して勵行すること

四、奉仕の理想に依って協力一致し、商業上又は専門的職業上に世界的和衷友誼の精神を持し、依って以って国際的諒解と友情及平和を促進すること

なお、戦後のRI復帰以降の公式文献はすべて「ロータリーの綱領」という用語で統一されており、「ロータリーの目的」という表現は姿を消しています。

さて、「ロータリーの綱領」は四大奉仕に対応しており、これを具体的に説明したものであると説く人がいますが、これは間違いです。

何故ならば、四大奉仕が採択された 1927 年当時は「ロータリーの綱領」は 6 項目から成り立っており、4 項目ではなかったからです。

四大奉仕とは奉仕活動の実践に基づいた分類であるのに比して、綱領とはロータリーの思想や理念を含めた目的そのものを指しているから、本質的にその性格は異なったものです。

<1922 年 ロスアンゼルス大会>

ロータリーの目的は次の事項を奨励かつ育成するにある

1. すべての尊ぶべき事業の基礎として奉仕の理想
2. 実業および専門職業の道徳的基準を高めること
3. ロータリアンすべてがその個人、職業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること
4. 奉仕の機会として知り合いを広めること
5. あらゆる有用な職業は尊重されるべきであるという認識を深めること、そしてロータリアン各自が職業を通じて社会に奉仕するためにその職業を品位あらしめること
6. ロータリーの奉仕の理想に結ばれた実業人と専門職業人の世界的親交によって、理解、親善と国際間の平和を増進すること

これが現在の形の綱領になったのは、1935 年のメキシコシティ大会からです。1951 年に開催されたアトランティック・シティ大会において、国際ロータリーおよび標準ロータリークラブ定款が改正され、**Objects of Rotary** が **Object of Rotary** と単数形に改められたことによって、従来の四ヶ条の「ロータリーの綱領」が一ヶ条の本文と四項目の付随条項となって、現在と全く同じ「ロータリーの綱領」に変更され、今日に至っています。

ロータリーの綱領

ロータリーの綱領は、有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹、育成することにある。

第1 奉仕の機会として知り合いを広めること。

第2 事業および専門職務の道徳的水準を高めること。あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること。そしてロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること。

第3 ロータリアンすべてが、その個人生活、事業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること。

第4 奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること。

なおロータリーの綱領を受諾し遵守することを条件にして、入会を認められるという定款上の規約は、定款が定められた当初から現在に至るまで変化することなく引き継がれています。

綱領の受諾と定款・細則の遵守

会員は、入会金と会費を支払うことによって、綱領の中に示されたロータリーの原則を受諾し、本クラブの定款・細則に従い、その規定を遵守し、これに拘束されることを受諾するものとする。そしてこれらの条件の下においてのみ、会員は、本クラブの特典を受けることができる。

各会員は、定款・細則の印刷物を受け取ったかどうかにかかわらず、定款・細則の条項に従うものとする。

2008年4月25日

ロータリークラブ定款と CLP の矛盾

1998 年の規定審議会において、奉仕活動の実践がクラブ例会のメークアップとして認められるように定款が変更になった際、ついに来るべき日が来たと感じたのは私だけではないと思います。何故ならば例会は純粹親睦を図りながら奉仕理念を研鑽する場所であり、奉仕活動の実践は例会場を出た後に、職場や地域社会や国際社会などの **Community** の場で行うものだと考えられてきたからです。奉仕理念の研鑽の場を経てこそ、奉仕活動の実践の場が与えられるのであって、実践が研鑽の代替になる道理はありません。この決定の後には、「例会でご飯を食べながら無駄な時間を費やすより、額に汗してボランティア活動をする方が価値がある」という風潮が全世界的に高まって、徐々に例会が形骸化して現在に至ったような気がします。

それから数年後、2004 年に当時のグレン・エステス RI 会長エレクトの「世界最大の NGO であるロータリー」という発言を聴いた際、私はまさしく国際ロータリーの終焉が間近いことを感じました。いつロータリーは奉仕理念の研鑽や職業奉仕の実践を捨てて、ボランティア組織に移行したのでしょうか。過去の規定審議会において NGO に衣替えするような議案は一切提案された記録はありません。規定審議会における審議を経ずに、ロータリーの哲学である奉仕理念を RI が勝手に変更することを許すわけにはいきません。

ロータリー活動は単なる理念の提唱に止まらず、奉仕活動の実践が伴わなければならないことは決議 23-34 に明記されています。しかし、人道的な奉仕活動に専念するために、奉仕理念の研鑽や職業奉仕活動

の実践を放棄してもよいという理由は通りません。

ロータリークラブを NGO 組織だと定義して、その目的を人道的なボランティア活動だと考えれば、会員数が激減したクラブには存在価値はありません。ボランティア組織ならば、何よりもマンパワーが優先しますから、会員数が 10 名や 20 名のクラブでは、積極的なボランティア活動を期待することは不可能だからです。こういった弱小クラブでも何とかボランティア組織として自立させていくための最小限度の管理組織を想定したものが、RI が提唱した CLP なのです。言い換えれば、CLP とは「機能を喪失しているクラブ」乃至は「機能を喪失しかかっているクラブ」が、「人道的奉仕活動をするボランティア組織」として生き長らえるためのプランだとも言えます。

クラブの委員会構成はクラブがその自治権に基づいて独自に定めるものであって、RI や地区ガバナーが強制すべきものではありません。CLP は RI 定款・細則、クラブ定款で定めた規約ではなく、単に RI 理事会が決定してクラブに推奨している計画に過ぎないので、推奨クラブ細則に記載されているとしてもそれを採択するか否かはクラブが独自に判断すべきものです。

しかし、日本ではお上のお達は守らなければならないと考える人が多いらしく、マンパワーに恵まれている大型のクラブまでもが、従来の四大奉仕の委員会構成を捨てて、RI 推奨の委員会構成を採用している例をしばしば見受けます。不必要な委員会を廃止してクラブ組織の合理化を図るために統廃合するのならばともかく、ロータリー活動の中核である職業奉仕部門を廃止する理由が理解ではません。

さらに残念なことには 34 地区のうち 13 地区までもが、地区委員会構成に CLP を取り入れて、職業奉仕委員会と社会奉仕委員会と国際

奉仕委員会を廃止して奉仕プロジェクト委員会に一本化しています。小規模クラブが CLP に基づいた委員会構成を採用することは致し方ないとしても、地区が CLP に基づいた委員会構成を採用して、職業奉仕や社会奉仕の部門を廃止することは、理解に苦しむ現象と言わざるを得ません。

ガバナー要覧には次のような記載があります。

ロータリーの奉仕の理想は、四大奉仕部門、すなわちクラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕という国際ロータリーの哲学的な礎石に基づいた奉仕活動で構成されています。ロータリー・クラブは、ロータリーの綱領を支えるためにそれぞれの奉仕部門活動を遂行します。

四大奉仕部門がクラブ活動の土台となり、能率的な管理がクラブの成功に不可欠となります。責務を完全に理解した上で、予定に沿って能率的にそれを遂行できるクラブ指導者は、年度を通じて、クラブが一層の業績を上げられるよう導くことができるでしょう。

四大奉仕部門と能率的なクラブ管理の両者が一体となり、効果的なロータリー・クラブの土台となります。

効果的なクラブの要素と四大奉仕部門とは、互いに関係があります。クラブ会員を維持、増加することによって、四大奉仕部門すべてにおいて奉仕活動を実施するにあたり、クラブの能力に直接影響が及ぼされます。奉仕プロジェクトを成功させることによって、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕がさらに強化されます。また、ロータリー財団への支援もこれらの奉仕部門に影響を与えます。クラブの枠を超えてロータリーのために奉仕できる指導者を育成することにより、すべての奉仕部門に影響を与えることとなります。どのような指導的役職（ガバナー補佐、地区委員会委員、地区の研修リーダー、地区ガバナー、RI

の任命役員、RI 理事、RI 会長) を務めたかにより、その形はさまざまです。効果的なクラブの要素を実現することによって、ロータリー・クラブは奉仕の機会をさらに広げ、ロータリーの綱領をさらに力強く支えることができるのです。

地区はクラブを支援するために存在するのですから、クラブの基盤が四大奉仕である以上、地区は四大奉仕に関する情報をクラブに発信する義務があり、当然のこととして地区に四大奉仕を担当する委員会を設置すべきだと考えます。地区委員会構成から四大奉仕部門を廃止することは、カバナー自らが「ガバナー要覧」に違反していることを証明しているのではないのでしょうか。

この CLP の構想は、RI 事務局主導で進められてきた感があります。この四大奉仕の原則を無視した委員会構成の考え方に、RI 理事の中からも異論が出ていることは、国際大会においても国際協議会においても、RI 会長や RI 理事から CLP に関するコメントが一切なかったことや、2005 年に CLP に関する各種のドキュメントをまとめた「クラブ・リーダーシップ・プラン」の小冊子が発行され、2006 年に「効果的なクラブとなるための活動計画の指針」が発行された以降は、現在に至るまで RI からは何らの新しい資料は発行されていませんし、CLP に関する新しいコメントも出されていないことから、RI 理事会内部でも、これを進めようとするグループとこれに消極的なグループ間の意見の不一致があることを伺わせます。

四大奉仕を無視した CLP に基づく委員会構成に反対する RI 理事のグループが、標準ロータリークラブ定款において改めて四大奉仕を位置づける提案を、2007 年規定審議会に提案し、これが採択されたこ

とから、今後は再び従来の四大奉仕を尊重した委員会構成に復帰する流れが強まるものと思われます。この運動の中心になったのはビチャイ・ラタクル元会長や日本の理事であったことを申し添えます。

ここで、新しくクラブ定款に記載された四大奉仕に関する規定をご紹介します。

ロータリーの四大奉仕部門は、本ロータリー・クラブの活動の哲学的および実地的な規準である。

1 奉仕の第一部門であるクラブ奉仕は、本クラブの機能を充実させるために、クラブ内で会員が取るべき行動に関わるものである。

2 奉仕の第二部門である職業奉仕は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理想を生かしていくという目的を持つものである。会員の役割には、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行うことが含まれる。

3 奉仕の第三部門である社会奉仕は、クラブの所在地域または行政区域内に居住する人々の生活の質を高めるために、時には他と協力しながら、会員が行うさまざまな取り組みから成るものである。

4 奉仕の第四部門である国際奉仕は、書物などを読むことや通信を通じて、さらには、他国の人々を助けることを目的としたクラブのあらゆる活動やプロジェクトに協力することを通じて、他国の人々とその文化や慣習、功績、願い、問題に対する認識を培うことによって、国際理解、親善、平和を推進するために、会員が行う活動から成るものである。

私たちが守らなければならないロータリーの規約にクラブ定款とクラブ細則があります。クラブ定款はロータリークラブに関する基本

的なルール、目的を定めたものであり、規定審議会に於いて制定または変更することができますが、クラブが勝手に制定したり変更することはできません。これに対してクラブ細則は、クラブの管理運営を円滑にするための具体的な規約であり、クラブが独自に制定変更することができます。推奨ロータリークラブ細則は、RI がサンプルとして提示したものに過ぎなく、国際ロータリー定款や国際ロータリー細則や標準ロータリークラブ定款に背馳しない範囲内で、クラブ・レベルで独自に制定したり変更することができます。すなわちクラブ細則は、クラブ自治権の範疇でクラブが自らのクラブの現状に合わせて、自由に制定するものなのです。

標準ロータリークラブ定款で新たに四大奉仕が定義されたことから、やっと CLP に基づく委員会構成に疑問を抱き始めたロータリアンが増えてきたようです。

CLP は推奨クラブ細則の規約に過ぎません。すなわちそれに従うのも従わないのもクラブの自由です。またその名の通りクラブ細則ですから、地区には何らの影響を及ぼしません。これに対して四大奉仕の原則はクラブ定款で定められたものですから当然のことながら遵守義務があります。定款で定められた四大奉仕に基づく委員会構成を採用すべきか、CLP に基づく委員会構成を採用すべきか、いまさら議論の余地はないのではないのでしょうか。

2008年5月30日

アル・カポネとシカゴ・ロータリークラブ

1899年1月17日ニューヨークのブルックリンで生まれたアル・カポネは、少年時代からニューヨークのストリート・ギャングのボスであったジョニー・トリノの子分になります。1920年にアメリカでは「禁酒法」が施行され、酒の密造が大きなビジネスになると考えたトリノはカポネと共にシカゴに移動します。カポネの配下にビールやウイスキーの販売担当や醸造事業担当などがおかれトリノの組織は企業組織のように統制のとれたものでした。

1925年トリノは刺客に襲われて重傷を負って引退し、その後はカポネが組織のボスとして君臨しシカゴの暗黒街を支配します。カポネは密造酒製造・販売のほか売春・賭博・恐喝など犯罪組織を統合して近代化し、さらにシカゴ市長ビックビル・トンプソンをはじめ、政治家、警察などの官憲を買収して組織の拡大と安泰化を図りました。

街ぐるみの不正に対処するために、1919年にシカゴの企業家6名が中心になって犯罪防止取締小委員会が設立されました。委員長のロバート・アイシャム・ランドルフ大佐が、生命を危険にさらす恐れがあるとして他の5人の委員の名前を公表しなかったことから、当初この委員会は「秘密六人委員会」と呼ばれました。

この委員会が発展的に改組されたのがシカゴ犯罪調査委員会です。この委員会は政治的イデオロギーや権力志向をいっさい持たないことで、他の組織とは一線を画しており、選挙の票や賄賂や暴力で意志を押し通すのではなく、シカゴにおける腐敗の性質や程度に関する情報や調査結果を広く市民に伝えることに重点を置いた活動をしました。この委員会の最初の委員長は、シカゴ・ロータリークラブの副会

長を2期務めたヘンリー・バレット・チャンバリン大佐であり、委員のうち、9名は元シカゴ・クラブ会長であり、4名はシカゴ・クラブの会員でした。

シカゴ暗黒街に合法企業を装った犯罪組織が闊歩している現状を心配したチャンバリン委員長はシカゴ・クラブで次のように話しています。「犯罪は、集権化され、組織化され、商業化されたシカゴ市が生み出したビジネスです。あなた方がギャングに経営させている着実なビジネスなのです。それは決して歓迎されるものではないし、結果として試練の時をもたらすだけではなく、貧しさと冷え冷えとした天候をもたらすものです。もし世論が喚起されれば、犯罪というビジネスは破産に追い込まれるに違いありませんが、その決断は、それに従事している多くの人々の選択如何にかかっているのです。」

シカゴ犯罪調査委員会は、個々のケースを記載した多くの報告書を作成して、保釈保証人の不正をあばく調査を実施しました。せっかくギャングを逮捕しても、裏で結びついている保釈保証人の暗躍によってすぐに釈放されるようでは意味がありません。ロータリアンによって勇気づけられた委員会の努力が実って、11人の職業的な保釈保証人が大陪審に告発され、その職から追放されました。

チャンバリン委員長はラジオを通じてカポネ追放運動を展開し、組織犯罪を特集した番組の中で、差し迫った大きな脅威に対する市民感情をあおりました。「カポネほど危険で、策略に富み、残酷で、脅威を与え、良心を持たぬ現代の犯罪者は他にいません。彼ほどにシカゴの名を汚した者は、現在も過去にも見当たりません。」と彼は力説しました。「ブルックリンの不良少年時代にはじまり、ポン引き、女の

売買、殺なにびと人と段階を経て、この国で何人もなしえなかった地位にまで到達しました。」チェンバリン委員長はカポネを全能の怪物のように描きながらも、捜査当局に民衆の敵ナンバー・ワンを裁判にかけるだけの力があることを聴取者に理解させようとしてしました。

チャンバリン委員長からシカゴ犯罪調査委員会の委員長を引き継いだのは、1852年にドイツ系移民の息子に生まれたフランク・レッシュです。彼はノースウェスタン大学で法律を学び、その後法律事務所を主宰し、ペンシルヴァニア鉄道の顧問弁護士を務めました。1928年に、彼はシカゴ・クラブで次のように語っています。「犯罪と政治の間にある結託は、過去の2年間に149件のギャングによる殺人事件があったという事実からも、ギャングのみの仕業ではないことを証明しています。」

レッシュは、公衆の敵に対して、長い戦いをいどみました。彼は単なる事実調査にとどまらず、犯罪全般と、とくにアル・カポネに対する取締りの強化を目指しました。レッシュはシカゴに赴任する何年も前から刑法の実務経験を積み、その後、カポネがまだブルックリンで少年時代を過ごしていたころから、検事としてシカゴの汚職や不正選挙の調査を行っていました。

1928年、レッシュは自ら願い出て、その年の予備選挙のさまざまな不正を調査する特別州検事に任命されました。わが身可愛さに、レッシュの調査活動に対する予算の割当を拒否した郡委員会に代わって、市民が彼の活動を支えるために一般から寄付を募り、レッシュのもとには15ドルもの軍資金が集まったので、結局、郡委員会も追加資金を出さざるをえなくなりました。勢いを得たシカゴ犯罪調査委員会は、62名の贈収賄や選挙違反を起訴して、ほぼ全員が有罪となりま

した。レッシュの作戦は、投票日前夜、警官隊を派遣させて、ギャングを全員刑務所にぶち込んで、投票が終わるまで留置することでした。70台のパトカーが出動して、ギャングたちを刑務所に収容しました。選挙当日、シカゴはこの40年間でもっとも平穩無事な投票日を迎え、一件の苦情も寄せられず、不正行為や脅迫事件も起きませんでした。

1929年2月14日には有名な「聖バレンタインデーの虐殺」が起こり、対立していたバッグス・モラン一家が機関銃の乱射により射殺されました。事件の首謀者とみなされアル・カポネは、事件当日フロリダにいたというアリバイをでっちあげて、その罪を免れます。国民の間に「カポネを何とかしろ」という声が起こりますが、当時のシカゴ警察の中にはカポネの影響力が及んでおり、彼を逮捕することは至難の業でした。やっと1929年3月に武器の不法所持で逮捕しますが、判決は懲役1年であり、結局9ヶ月で出所してしまいました。

レッシュは、暴力に訴えたり、法的措置をとるのではなく、汚名を着せることによってギャングを一掃しようという計画を進めました。そこで、シカゴ犯罪調査委員会の力を借りて、悪名高いギャングや有名な殺し屋、誰もが知っていながら、犯罪を立証できない殺人者たちのリストを作りました。当初そのリストには100名近い名前がありましたが、そこから28名を選びだして、「民衆の敵」と名づけて、警察本部長や保安官、捜査官全員に送ったのです。レッシュの憎むべき第一の敵はもちろんアル・カポネでした。そして「民衆の敵」を大物順に列挙しました。その目的は、シカゴの最も悪名高いギャングを白日のもとにさらして、捜査当局と法を遵守する市民の監視下におくことでした。シカゴ・トリビューン紙はこのリストを第一面に8段組みで掲載し、さらにこの記事は全国の新聞に転載されました。突然、シカ

ゴ暗黒街のギャングたちはこれまでになく厳しい世間の目にさらされることになったのです。

「民衆の敵」という烙印は、1929年に起こった世界大恐慌にあえぐ国民の苦しみによって増幅されて、カポネはありとあらゆる社会悪のスケープゴートになりました。もはや病める社会の一徴候として大目に見られることはなく、今やその元凶とみなされました。レッシュの見事な広報活動のおかげで、アル・カポネは二十世紀アメリカの最初にして最悪の犯罪者となりました。

ワシントン DC では、フーヴァー大統領がこの新たなカポネ追放運動に政府の威信を懸け、記者たちを招いて非公式の会見を行い、連邦政府はすでに兄のラルフ・カポネをとらえ、弟のアル・カポネが逮捕されるのも時間の問題だと説明しました。FBIは「アンタッチャブル」と呼ばれるカポネ逮捕の為の特捜班を設置し、カポネを追ってシカゴやマイアミに潜入させました。そしてついに1931年カポネを脱税容疑で摘発しました。

公正な裁判が行われていたらカポネは無罪であったとも言われていますが、裁判所も国民の世論に配慮して、脱税に対して懲役11年という重い判決が言い渡されました。当時アメリカは1933年にシカゴで万国博覧会の開催を予定しており、その前にカポネ一家を何とかしたいという政治的意図もかなり働いていたものと思われます。

カポネは服役後7年で仮釈放されフロリダの別荘に戻りますが、1947年1月、病気のためにこの世を去ります。カポネが服役中、「禁酒法廃止」と訴えたフランクリン・ルーズベルトが大統領選に当選して、1933年、禁酒法は廃止されました。

シカゴ・クラブは 1939 年に、レッシュが 87 歳の時に、彼の長年に亘る活動に対して、シカゴ・ロータリー功労賞を授与しました。受賞に際して、彼は次のように語っています。「私は公衆の代表者と知り合いを深めることを、会員一人一人に強調したいと思います。そうすれば、長い目で見れば、いつか必ず世論によって説き伏せることができるからです。」

1942 年、シカゴ・ロータリークラブの会員ヴァーギル・ピーターソンがシカゴ犯罪調査委員会の委員長に就任し、1960 年代に至るまで、その地位に留まっています。

2008 年 6 月 6 日

ボビー・フランクス殺人事件

1924年5月21日、共に裕福な家庭に生まれてシカゴ大学に通っていたネイサン・レオポルドとリチャード・ローブは、富裕なユダヤ人実業家の16才になる息子ボビー・フランクスを、言葉巧みにレンタカーに誘い込んで誘拐しました。互いに同性愛関係にあったレオポルドとローブはニーチェの超人思想の信奉者で、逮捕される恐れを一切感じることなく完全犯罪を成し遂げる力があると信じていました。

フランクスは、彫刻刀によって殴打された後、絞殺され、身元特定が困難になるよう顔と性器を塩酸で焼かれて、シカゴ郊外の線路の下にある排水路の中に投げ捨てられました。身代金目的の誘拐だと見せかけるために、1万ドルの身代金を要求するように偽装したタイプライターで打った脅迫状が送りつけられましたが、フランクスの父が身代金を払う前に、ポーランド移民のトニー・ミンキが排水路の中から死体を発見するという偶然が重なり、すべての計画が狂ってしまいました。

警察は、これが単なる身代金目的の誘拐ではないことを直ちに察知しました。フランクスの遺体のそばから真新しい読書用の眼鏡が発見されました。一見何の変哲もない眼鏡のように見えてましたが、この眼鏡の蝶番には特徴があって、アルマー・コウの眼鏡店で売られたものであることが判明しました。さらに、この特殊蝶番を使った同じフレームの眼鏡は、これまでに3個しか売られていませんでした。そのうちの1つの持ち主がレオポルドであり、その他の2つの持ち主はその眼鏡を手元に持っていました。レオポルドだけが「バード・ウォッチングをしている時に落としました」と主張しました。

身代金を要求する手紙を調べると、それはレオポルドが法学部のゼミ

で使っていたタイプライターで打たれた文字であることが判明しました。警察が取調べを重ねるうちに2人のアリバイは崩れ、ついに誘拐と殺害を自供しました。

ローブの家族が雇った弁護士・クラレンス・ダロウの奮闘の結果、2人は大方の予想を裏切って死刑判決を免れて、殺人罪に対して終身刑、誘拐罪に対して99年の懲役刑を受けました。

イリノイ州ジョリエット刑務所に収監された2人は、自らの受けた高等教育を善用して、刑務所の中の学校で囚人たちに授業を行いました。しかし1936年1月、ローブは服役者仲間のジェイムズ・デイにシャワー室で襲撃され、剃刀で切り殺されました。一方レオポルドは1958年、33年間の服役を経て仮釈放が認められて出所し、マスコミの取材攻勢を避けるためにプエルトリコへ移住し、花屋の未亡人と結婚して、1971年に66歳でこの世を去りました。

この事件は、ありきたりの誘拐事件とは全く違い、完全犯罪を遂行することで自分たちの優越性を立証しようという動機の異様さが話題を呼び、その後アルフレッド・ヒッチコック監督の映画『ローブ』（1948年）や、トム・ケイリン監督の『恍惚』（1992年）、バーベット・シュローダー監督の『完全犯罪クラブ』（2002年）のモデルになりました。

さて、最後になぜこのボビー・フランクス殺人事件を「炉辺談話」に収録しようと考えたかについて、説明する必要があります。

この事件が解決する鍵となったのが、眼鏡商アルマー・コウの存在です。彼の協力なしにはこの事件は解決しなかったことは誰の眼にも明らかです。Almer Coe Optical Co.は当時のシカゴで一番大きな眼鏡

店であり、シカゴ・ロータリークラブの会員でもありました。当時シカゴ・ロータリークラブはシカゴ犯罪調査委員会を設立して、マフィアと対決しながら連邦警察に協力していた時期であり、この事件でもその解決の一翼を担ったものと言えます。 ウェブで検索すると、現在もシカゴには **Almer Coe Optical Co.**が存在しますので、その後 80 年間営業を継続しているものと思われますが、現在のオーナーがロータリアンであるかどうかは詳らかではありません。

2008.6.20

1909年の方針

1909年当時シカゴクラブは親睦派と奉仕派とが対立して収拾のつかない状況でした。そんな中でポール・ハリスは二期目の会長を任期半ばで辞任し、奉仕派のリーダーであったアーサー・フレデリック・シェルドンも役員を解任されて、親睦派のリーダーであったハリー・ラグルスが会長としてクラブの運営に当たることになりました。その間に至る事情をやや詳しく説明すると次の通りです。

殺伐とした都会の中で安らぎと友情を求めるためにロータリーができました。やがて、それに、会員の事業上の利便を図り合う相互扶助の考え方が加わります。その後ドナルド・カーターの提唱によって対社会的な奉仕活動の必要性が説かれ、1907年、ポールの会長就任と共にクラブの活動方針は大きく転換され、会員増強と拡大と地域社会への奉仕活動へと移っていきます。

当時のシカゴ・クラブの会員数は150名前後でしたが、新しい会員の大部分は親睦と物質的相互扶助を目的に入会したものであり、そこに地域社会への奉仕とか拡大といった新しい概念が導入されたものですから、大きな混乱が起きました。ポール・ハリスの方針に積極的に賛同したのは、ドナルド・カーターやアーサー・フレデリック・シェルドンなどの小数派であり、クラブ内で圧倒的多数を占めていた親睦・互惠派との間でくりひろげられた論争の激しさは、想像を絶するものだったらしく、遂にシカゴ・クラブを拠点にしたロータリー活動を断念したポール・ハリスは、二期目の任期途中で会長を辞任し、次いでシェルドンも、新会長ハリー・ラグルスによって、拡大委員長

を解任されるという異状事態にまで発展します。

この「1909 年の方針」という文書は、新しく会長に就任したハリ
ー・ラグルスが自らの正当性を主張した声明文です。

この騒動の結果、1910 年に結成されたのが、当時 16 クラブまで拡
大されていたロータリークラブの連合体である全米ロータリークラ
ブ連合会であり、これを境にして、奉仕・拡大派の活動の場はシカゴ・
クラブを離れて全米ロータリークラブ連合会(現在の RI)へ移ってい
きます。拡大も奉仕理念の追求も大切なことではありますが、その議
論が白熱化した結果、シカゴ・クラブの親睦に破綻をきたしたことも
また事実です。ロータリークラブが社交クラブとして生まれた以上、
どんな理由があつたとしても親睦を阻害する因子は排除しなければ
なりません。この苦い経験を経て、親睦の場としてのロータリークラ
ブと、奉仕理念を追求し積極的に拡大を図る場としての連合会を分離
することによって、無用の混乱を起こさないという配慮から連合会を
設立する構想が生まれたのです。

ちなみに、連合会の初代会長にはポール・ハリスが就任し、事務総
長（幹事）はチェスレー・ペリーが務めました。チェスは、1942 年
までの 32 年間その職に留まり、退任後の 1947 年、シカゴ・クラブ会
長に就任することで、古巣であるシカゴ・クラブに華を持たせました。
なおこの事件を機に袂を分かったポール・ハリスとハリー・ラグルス
の仲は生涯関係回復しなかったといわれています。

1909 年度の方針

ハリー・ラグルス

今年度の私の方針は以下の通りです。

1. 私は、あなた方に素晴らしい企業経営能力を与えるつもりです。私は、会員数を増やすために、最善を尽くすつもりです。私達が素晴らしい人を各々の分野から発見すると同時に、会員を増やします。会員選考委員会が、申込者から申し入れのあった人について、多くのことを知ることを期待するのは、ほとんど不可能に近いので、すべての会員は、会員に接近してくる人たちに対して、細心の注意を払うべきであると考えています。我々はクラブの水準を引き上げなければなりません。

2. 会員間の取引交換量は、非常な速さで伸びています。もしあなたが、返信はがきを点検して、会員間で処理された取引の量を見たら、驚くに違いありません。提供したり提供されたりした量は、2週間に15種類にも及ぶ注文を超えているのです。

3. 実行可能な限り、会合のたび毎に会合の通知を書き、会合が成功するために十分な責任をとり、義務を果たしてくれる、異なった委員長を指名する予定です。

4. 例会を興味深いものにしてくれる人を望んでいます。時には有名な公的な卓話者による話によって、例会を開くたびに才能のある人を育てるように努めたいものです。クラブの大多数が賛成ならば、我々の例会を公式なものにしたいと思います。

5. 拡大作業について。すべての大都会にロータリークラブを持ち、シカゴに本部をおいた全国組織を持っていることが理想的であると考える一方で、これに関しては、注意を払いながらいくべきであると信じています。この問題は理事会において、すべての角度から協議されるべきです。私はこの作業について責任を取りたいとは思っておらず、委員会の責任の元で、クラブの考え方に従った計画を提出するつ

もりです。

6. まったく利己的な動機から、最善の成果を得ることができるとは信じていないので、クラブが一定量の市民に対する活動を取り上げるべきだと確信しています。

7. ロータリーにとって、成功した年になることを希望しています。我々は肩を寄せ合って活動しようとしています。我々は、我々の事業を通じて、お互いに助け合っていこうとしています。我々はお互いに知り合いを深めようとしています。そして我々全員が善き友人になろうとしているのです。

2008年6月28日

黄金律の解釈

ロータリーの奉仕理念を具体的に職場で実践するための「道徳律」を制定する作業が、1913年のバッファロー大会で提案され、1915年のサンフランシスコ大会において「全分野の職業人を対象とするロータリー倫理訓（道徳律）」が採択されました。

しかしその11条に記載された「すべて人にせられんと思うことは、他人にもその通りにせよ」という黄金律が、マタイ伝7-12の「Do unto others as you would have them to do unto you.」からの引用であり、宗教禁のロータリーの方針に反するという理由で、1931年に道徳律の頒布が禁止され、1951年には「道徳律」そのものが消し去られる遠因になったと言われています。

黄金律そのものの考え方が宗教であるか否かについては異論があり、むしろ哲学であるという意見が大勢を占めるようです。

イギリスのロータリアン、ビビアン・カーターが書いた「ロータリー解析 The meaning of Rotary」には次のような記載があります。

「ロータリー活動における究極の目的の第一は、すべての尊ぶべき事業の基礎として、奉仕の理想を奨励し育成することであるが、ロータリーそのものに、これを要求することは不可能であり、現実には、その真意が何であるかを述べることも難しい。多くの人たちは、それが黄金律からきたものであると説明しているが、数年前に、ロータリーの国際大会の講演者は、演説の中で、この黄金律の様々な表現方法について次のように解説している。

エジプト人曰く、自らが望んだことを捜し求めて、それを他人にし

てあげなさい。

ペルシャ人曰く、あなたが人からしてもらいたいことを、人にしてあげなさい。

仏陀曰く、自らが望んでいる幸せを、他人のために捜し求めなさい。

中国の哲学者曰く、あなた自身が望まないことを、他人にはなりません。

モハメット曰く、あなたがしてもらいたくないような方法で、あなたの兄弟たちを扱ってはなりません。

ギリシャ人曰く、隣人から敵意を抱かせるようなことをしてはなりません。

ローマ人曰く、すべての人が心に刻み込んでおかなければならない法律とは、あなた自身を愛するように社会の人たちを愛さなければならないことです。

モーゼ曰く、あなたが隣人からしてもらいたくないことを、隣人にしてはなりません。

ナザレのイエス曰く、すべて人にせられんと思うことは、他人にもその通りにせよ。

このように、奉仕理念は人間の思考と同じくらい古いものである。例え、宗教の教えと哲学の理論との差があったとしても、隣人に対して己を捧げることが道徳上の義務であり、人生のすべての部門でそれを適用することを、全体として説いたものであることには間違いはない。

アーサー・フレデリック・シェルドンは 1913 年の年次大会で「効果的な能力に関する哲学と倫理 *The philosophy and ethics of successful accomplishment*」という表題で基調講演をおこない、その中で「すべて人にせられんと思うことは、他人にもその通りにせよ」

という黄金律の言葉は「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」というロータリーモットーと同じ意味を持っていると述べ、黄金律はロータリーの奉仕理念そのものであるという解釈をしています。

更に、教会でならば一週間に一回この言葉を述べながらお祈りをすればいいけれど、私たちのロータリアンは、各人が自分のためではなく、他人のために奉仕するというこの教えを守りながら、一週間に七日間励まなければならないと結んでいます。

2008年7月16日

決議 23-34 の杞憂

決議 23-34 に対する国際ロータリー理事会の対応について諸説が飛び交っています。廃止されると心配される方もいるようですが、このドキュメントは国際大会における決議なので、RI 理事会が勝手に廃止するわけにはいかず、規定審議会の議を経なければ廃止することはできません。しかし、RI 理事会がこのドキュメントをロータリーの公的文書に記載しないと決めることは自由なので、かつての「道徳律」のように歴史的文献という枠に閉じ込めて、ロータリアンの目に触れないようにすることは可能です。

決議 23-34 を社会奉仕に関する方針だと解釈している人も多いようですが、この原文が「綱領に基づく諸活動に関するロータリーの方針」であることから、単に社会奉仕の留まらず、ロータリーのすべての活動の指針です。従って、これを失うことはロータリーのすべての活動の指針を失うことを意味するので、これがお蔵入りになることは何としてみても避けたいものです。

さて、RI 理事会におけるこの問題に関する議論の顛末を幾つかのソースを経て入手し、その内容を客観的に分析してみましたので、これを公開して皆様のご批判を仰ぎたいと思います。

元 RI 副会長ビル・サージアントは 2007 年 10 月 5 日付けの書簡で、エド・フタ事務総長に対して次の声明文を提出しました。

決議 23-34 はロータリーがアメリカ中心の組織であり、かつロータリアンの大多数が小規模な商売人で構成されていた 1923 年に作られたものなので、現在の状況には必ずしも適応するものではありません。

決議 23-34 は、明らかに現在のロータリークラブにおける社会奉仕活動とは合致しませんし、これを厳守しようとするれば、私たちは何もできなくなってしまおうでしょう。現に、私たちは決議 23-34 の原則を破ってきたからこそ、3-H やポリオ・プラスの活動ができたのです。

決議 23-34 は、他人のために奉仕したいという義務と利益との間に常に存在する矛盾を和らげようという哲学を引用しています。当時の仕立屋や靴屋の経営者にはこの問題があったとしても、今日、この矛盾が存在するのは僅かな人に過ぎません。

決議 23-34 は、国際ロータリーが役立つ提案をするのはかまわないが、プロジェクトを指示してはならないと定めていますが、ポリオ・プラスはこれに違反することで大きな成果をあげました。

決議 23-34 は、他の組織が全くそれをしない場合だけ、ロータリークラブが社会奉仕プロジェクトに従事すべきであると定めていますが、この条文が好きで何もしないクラブが多く見られます。現に 1947 年当時私のクラブがそうでした。

元 RI 副会長ビル・サージアントとエド・フタ事務総長は、決議 23-34 の多くの部分が現在のロータリーの社会奉仕原則と合致しないという理由で、2007 年 11 月に開催された理事会に次の提案をしました。

1. 社会奉仕に関する 1923 年の声明が、社会奉仕の理念や国際ロータリーやクラブの方針を必ずしも正確に説明していないように思われる。

2. ロータリー章典と手続要覧の将来の版からこの声明を削除するよう事務総長に要望する。

これに対して RI 常任委員会は RI 理事会に対して次のように勧告し

ました

決議 23-34 は、社会奉仕の理念や国際ロータリーやクラブの方針を必ずしも正確に説明していないように思われる。従って 2008 年 1 月の理事会において、手続要覧とロータリー章典の将来の版に歴史的なドキュメントを保存するための新しい形式を提案するよう事務総長に要望する。

すなわち、ロータリー章典と手続要覧の将来の版から、本文中に決議 23-34 を記載することは中止しますが、別に歴史的なドキュメントを保存するための新しい形式を考えてそれに収録するという提案に変更しました。

これを受けて、2008 年 1 月に開催された国際ロータリー理事会は次の案件を決定しました。

B-11 手続要覧とロータリー章典において歴史的な文献を保存する件

1.ロータリー章典を下記のように修正する

1.120. 歴史的文献

現在の方針や手続きに加えて、ロータリアンにとって歴史的な価値を持つ過去の RI 理事会や国際大会の決定や声明がある。このような決定や声明は、現在の RI の方針を表すものではないが、歴史的な意味合いからロータリアンやロータリークラブによって参考になるものである。事務総長は、ロータリアンにとって歴史的な価値があると思われる、すべての過去の方針、手続き、および声明のリストを保存するように努力しなければならない。

2.将来版を発行するにあたって手続要覧に同様な声明を含めるように事務総長に要望する。

以上の流れを要約すれば、決議 23-34 の評価が必ずしも正確に国際ロータリーの方針を表明したものではないので、手続要覧とロータリー章典の本文からは決議 23-34 を削除する代わりに、歴史的な文献を保存するための新しい形式を提案するよう事務総長に要請するというものです。

ロータリー章典 1.010 には「ロータリー章典の目的は、国際ロータリーの一般的かつ永続的な方針のすべてが含まれた包括的な文書を確認することにある。」と定められており、手続要覧の序文には「本手続要覧の目的は、クラブと地区の指導者がロータリーとその方針、および奉仕に最も関連深い手続きを理解するのを助けることである。」と述べられているので、ロータリー章典や手続要覧に古い方針や決定や声明を保存し、その歴史的な価値をロータリアンに強調すると説明しています。

この理事会決定に対する私個人の考え方は次の通りです。

2004 年規定審議会において、私が提案理由を説明して「ロータリーにとって歴史的に重要な声明や文書はその原文を保存するように RI 理事会に要望する件」が採択されましたが、RI 理事会はその決議を無視したまま現在に至っています。長い歴史を持つ東洋やヨーロッパは歴史的資産を大切にしますが、アメリカではその価値が理解できないようです。したがって今回改めて、歴史的に重要な文献を積極的に保存することを決定したことは喜ばしいことです。

決議 23-34 がロータリー章典と手続要覧の本文からは削除されて、

歴史的な価値を持つ過去の資料として保存されたとしても、現実にとどのような形でロータリアンが眼に触れるようにするのが気がかりです。決議 23-34 を道徳律の二の舞にはしたくありません。

決議 23-34 は、この原文が「綱領に基づく諸活動に関するロータリーの方針」であることから判るように、単に社会奉仕だけではなく、ロータリーのすべての奉仕活動の指針となるものです。従って、これを失うことはロータリーのすべての活動の指針を失うことを意味します。

第 1 条に記載されている「ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕—超我の奉仕—の哲学であり、—最もよく奉仕する者、最も多く報いられる—という実践理論の原理に基づくものである。」という文章はロータリーの奉仕理念すなわち奉仕哲学を定義した極めて重要な文章です。ビル・サージャントが述べたように、もしも現在のアメリカに利己と利他との調和に悩む人など存在しないのならば、エンロンの事件など起こる道理がありません。アメリカ人の利己と利他の心が調和しているとは笑止千万な話であり、僅か 400 年の文明しか持たない新興国の人に哲学を語らせることの危険性を感じます。

変えてはならないものと、変えなければならないものがあります。変えてはならないものは哲学すなわちロータリーの奉仕理念です。これを変えればロータリーとは異なった組織になってしまいます。従ってロータリーの奉仕理念を定義した決議 23-34 第 1 条を変えることは許されません。

これに反して組織の管理運営が硬直化すれば制度疲労を起こして、その組織は衰退の道を辿ります。すなわち第 2 条、第 3 条は現状にマ

ッチするように変える必要があります。さらに奉仕活動の実践は社会のニーズに従って実践する必要があります。ロータリアンの思いつきで奉仕活動の選択をすべきではありません。そのためには、第4条、第5条、第6条は社会のニーズに沿った内容に変える必要があります。

決議 23-34 を原文のまま遵守していきたい気持ちが強い一方で、その内容に現代にそぐわなくなっている個所があることことも事実です。いたずらに決議 23-34 にしがみつくとではなく、哲学としてのロータリーの奉仕理念を遵守しつつ、現状に沿うように組織の管理運営を改革し、現在の地域社会や国際社会のニーズにかなった奉仕活動の指針を新たに策定したドキュメントを早急に策定して、それに基づいてロータリーの諸活動を実践するという選択も考えるべきだと思います。

日本の理事の活躍によって、サージャント氏とフタ氏の提案は骨抜きになるはずだと希望的観測をされる方もいるようですが、2008年6月の発表された最新のロータリー章典からは決議 23-34 は完全に抹消されており、歴史的に貴重なドキュメントとして別途収録するという決定も守られていません。この調子でいけば 2010 年版の手続要覧からも抹消されて、決議 23-34 が規定審議会の議を経ないまま、闇に葬り去られる日が近いと考えるのは、はたして私の「杞憂」に過ぎないのでしょうか。

2008年8月17日

決議 23-34 の杞憂 2

炉辺談話 396 において記載したように、元 RI 副会長ビル・サージアントとエド・フタ事務総長が社会奉仕に関する 1923 年の声明が、社会奉仕の理念や国際ロータリーやクラブの方針を必ずしも正確に説明していないように思われるので、ロータリー章典と手続要覧の将来の版からこの声明を削除するように提案しました。

これに対して 2008 年 1 月に開催された国際ロータリー理事会は、ロータリー章典の 1.120. に歴史的文献という項目を新たに設けて、

1. 現在の方針や手続きに加えて、ロータリアンにとって歴史的な価値を持つ過去の RI 理事会や国際大会の決定や声明がある。このような決定や声明は、現在の RI の方針を表すものではないが、歴史的な意味合いからロータリアンやロータリークラブによって参考になるものである。事務総長は、ロータリアンにとって歴史的な価値があると思われる、すべての過去の方針、手続き、および声明のリストを保存するように努力しなければならない。

2. 将来版を発行するにあたって手続要覧に同様な声明を含めるように事務総長に要望する。

という文章を規定することを決定しました。

しかし、2008 年 6 月の発表されたロータリー章典からは決議 23-34 は完全に抹消されており、歴史的に貴重なドキュメントとして別途収録するという決定も守られていないことは既にお話しした通りです。

その後、つい先日「ロータリー章典 11 月」が発表されましたが、2008 年 1 月の RI 理事会で決定したはずの「1.120. 歴史的文献」と

いう項目はどこを探しても見当たりません。

その代わりに「8.040.2. 1923年の社会奉仕に関する声明」という項目が新設されて、「理事会は、歴史的な価値を考慮して手続要覧の将来版の発行に当たって社会奉仕に関する1923年の声明を含めることを事務総長に要請した。(2008年6月RI理事会)」という記載が加わりました。

8.040.2. 1923 Statement on Community Service

The Board has requested the general secretary to include the 1923 Statement on Community Service in future editions of the Manual of Procedure because of its historical value. (June 2008 Mtg., Bd.)

理事会は総論の中で、歴史的な価値を持つ過去のRI理事会や国際大会の決定や声明を保存するように決定したにもかかわらず、現実のロータリー章典では総論ではなく今後発行される手続要覧の社会奉仕の項目に、決議23-34を含めることを要請したということになります。

ということで、現在のロータリー章典には「1923年の社会奉仕に関する声明」という言葉だけが残ったものの決議23-34の本文は完全に姿を消してしまい、現時点では歴史的に貴重な文献という項目は、RIの諸規約、公式文献、ウェブサイトのどこを見ても見当たりません。

かつて道德律が公式文献が排除され、なんとか道德律という言葉だけが国際ロータリー細則16条に残ったものの、やがて道德律という言葉そのものも消えていったことを思い出し、決議23-34も同様な経緯をたどりはしないかと心配しています。

「手続要覧に 1923 年の声明を含めることを事務総長に要請する。」という表現も引っ掛かります。RI における最高の意思決定機関である RI 理事会が、事務職員の長に過ぎない事務総長に要請するのはいささか筋違いで、これは指示ないしは命令すべきでしょう。ボランティアとして奉仕しているロータリアンと給料をもらって働いている事務総長とは、立場の違いを明確にする必要があります。さらにこの決議 23-34 を削除しようという提案をだした張本人の一人が事務総長ですから、理事会からの要請を無視して 2010 年の手続要覧から決議 23-34 を削除する可能性は否定できないと考えるのは果たして杞憂に過ぎないでしょうか。

なお「ロータリー章典 11 月」についての情報をいち早くお知らせいただいた前橋 RC の本田会員に感謝申し上げます。

2008 年 9 月 8 日

シカゴ公衆便所設置運動の真相

シカゴ・クラブの古い文献の中から、1962年1月2日に整理したと思われるシルベスター・シールのフォルダーを発見しました。その中に1929年にフレデリック・ツウイードが書いた声明文が収録されていますので、その全文を翻訳してご紹介します。

フレデリック・ツウイードの声明

1906の始めごろ、私が作りたいたいと思っている空気弁の特許をとるために、発明家であるエバレット・アレンに資金提供をしました。当時の私の弁理士は、イリノイ州シカゴのマーケットビル1410に住んでいたドナルド・Mカーターでした。アレンと私はこれらの発明や特許出願について、ドナルド・カーターに相談をしました。

当時、クラブに弁理士がいなかったので、1906年4月にドナルド・カーターにロータリークラブの会員になる気はないかと尋ねました。彼はその申し出に関心を持ったようだったので、私はシカゴ・クラブの定款と細則の写しを見せました。

当時の定款にはクラブの目的が次のように規定されていました。

第2条 目的 目的は以下の通りである。

第1節 会員の事業上の利益の促進

第2節 通常、社交クラブに付随する親睦とその他必要と思われる事項の促進

ドナルド・カーターはこの定款に目を通して、「入る気はありませ

ん。その種のクラブは、会員以外の人々に何らかの利益をもたらすことを考えるべきであって、市民に対する何らかの奉仕をする必要があります。」と答えました。

そこで私は、「それならばぜひクラブに入会して、あなたが考えているように定款を変えてください。」と、彼に言いました。

この提案は好意的なものでしたので、ドナルド・カーターは、「分かりました。あなたの言うとおりにしましょう。」と答えました。

この話し合いの結果、彼は 1906 年 5 月にロータリークラブに入会しました。ドナルド・カーターは、定款に追加すべきことを考えて、その条文を書き上げ、私たちはその内容について議論しました。そして、この条文を次の通りに作りました。

第 3 節 シカゴ市の最大の利益を促進し、忠誠心を市民の間に広げること。

ドナルド・カーターは定款を改正する方法を考え、第 2 条にこの条文を加えることによって定款を改正するように、クラブに提案しました。

彼の動議によって定款改正が提案されたとき、ドナルド・カーターは、「全く利己的な組織は生き残ることができません。ロータリークラブとして生き残りかつ発展することを望むのならば、私たちの存在を正当化する何かをしなければなりません。私たちは何らかの市民に対する奉仕をしなければなりません。この改正は市民に対する奉仕が可能なシカゴの組織になるように、シカゴ・ロータリークラブの目的を拡大するためです。忠誠心を市民に広げて、シカゴ市の利益のために何かをすべきです。」と述べました。

ドナルド・カーターは定款改正を支持して、極めて熱心かつ誠意を持ったスピーチをしました。クラブはそれを採択し、定款と細則が印刷されました。

この定款の下で早速行われた事業が、市役所と図書館のビルの公衆便所設置活動でした。この公衆便所の発想は、私がドナルド・カーターに提案したものです。そして、私たちには、それについて何回も話し合いを持ちました。彼はそれをクラブに提案して、公衆便所委員会が設けられ、結果的に委員長に就任しました。市の役人とこの件について話し合い、役人が乗り気であることがわかったので、多くの団体がグレート・ノーザンホテルで開催されたシカゴ・クラブの会合に呼ばれ、この例会で動議が採択されました。ドナルド・カーターとシカゴ・クラブの活動の結果、市によって、市役所と図書館ビルに公衆便所が建設されました。

フレデリック・トゥイード

フレデリック・トゥイードと私は、以上の声明を読み上げた結果、正しい事実に基づいた声明文であることを確認します。

ドナルド・M カーター

以上がフレデリック・トゥイードとドナルド・カーターの声明文です。

冒頭にはドナルド・カーターの入会の経緯について、次のように説明しています。

鋳物業であるフレデリック・トゥイードが、特許弁理士であるドナルド・カーターにシカゴ・クラブへの入会を勧めました。当時盛んに行

われていた物質的相互扶助の特典を説明して入会を促したところ、クラブは対社会的奉仕活動をすべきだという理由で入会を断ります。その考え方に共感したトゥイードは、入会して内部から改革を実現するように説得して、カーターはこれに同意してシカゴ・クラブに入会します。

そしてこの年の12月に定款を改正して、第三節に「シカゴ市の最大の利益を促進し、忠誠心を市民の間に広げること。」という条文が加わりました。

この間の経緯がフレデリック・トゥイードの言葉で語られている重要な一次資料です。

この文章を読んで始めて知ったことは、シカゴ・クラブが行った公衆便所設置運動が、フレデリック・トゥイードとドナルド・カーターの発案であったということです。従来までの定説では、オーレン・アーノルドが書いた **Golden Strand** の以下の記述に基づいて、ポール・ハリスの発案だとされてきました。

「ポールは、偶然、シカゴ商工会の会合に出席しました。ループ地区における通行人のための快適な公共設備がないという議論があったので、そのアイデアをクラブに持ち帰りました。ここには、我々のエネルギーを傾注すべき市民のニーズがありました。我々は、価値ある奉仕の手助けができるのです。彼がそう述べたので、みんなは驚きました。ある者はにやりと笑って、その考えを撤回させることを考えました。ポールは、彼が真剣であり、そのようなプロジェクトが彼らの威厳の価値を高めることになると強く主張しました。」 **Golden Strand** より 田中毅 訳

Golden Strand は 1966 年に書かれた文献であって、伝聞に基づいた記載が多く、フランク・コリンスの例をあげて、事実と異なる記述が多いことをたびたび指摘してきましたが、この声明文から公衆便所設置運動の発案と実施の功労者はポール・ハリスではなく、フレデリック・トゥイードとドナルド・カーターであったことが推察されます。

2008 年 11 月 24 日